武蔵大学人文学会雑誌　26巻1号

啓蒙思想とフランス革命

(2) アベ・マジの蔵書目録

山　崎　耕　一

I. はじめに

本稿で取り上げるのは，18世紀にトゥルーズの地方アカデミーで活躍し，フランス革命にも参加したジャン＝ピエール・マジなる人物がみずから作成した蔵書目録である。我々の問題関心はすでに前稿[1)]に記したので，ここでは，なぜこのような無名の人物の，現在の我々から見ればささやかな蔵書をわざわざ取り上げるのか，説明を省く。ジャン＝ピエール・マジについても，生涯の概略は前稿の末尾に記したが，以下の行論に必要な範囲で，簡単にふり返っておきたい。

彼は1721年に生まれ，トゥルーズのコレージュで教授をしているイエズス会士のおじに預けられて，自らも聖職者になるべく勉強をし，資格を得て「アベ」を名のっている。しかし20歳前後から詩や小説を執筆するようになり，恋愛も経験した。20代後半に信仰の危機を迎え，結局，聖職者の道は断念する。以後はおじとの関係は疎遠になり，家庭教師をしながら，主に歴史や考古学に関する実証的な研究を行ない，トゥルーズの文芸アカデミーや科学アカデミーの主要メンバーの一人となった。フランス革命の際には，すでに老齢で，トゥルーズ北西の小邑グルナドに引退していたが，この町の革命行政に参加し，町役員や治安判事を歴任するとともに，特権層を批判する文書を執筆している。1801年に没した。

「啓蒙思想」が当時の人々にとっては具体的にどのようなものだったのであり，いかにしてフランス革命につながっていったのかを明らかにするための一つのケース・スタディとして，我々は，このアベ・マジを取り上げるのだが，本稿ではまず彼の蔵書目録を分析したい。私蔵書の研究については，わが国においても長谷川輝夫氏による論考[2)]があり，蔵書目録分析の方法や問題についても同氏が論じておられる。方法論に関する議論をするのが本稿の目的ではないので，我々はその点には立ち入らない。長谷川氏による種々の指摘を踏まえた上で，アベ・マジの蔵書目録からどのようなことが窺われるかをみていきたいと思う。

史料となるのは，トゥルーズ大学図書館に Mss215（187）の分類番号のもとに収められている“Catalogue de mes livres par lettre alphabétique, et tels qu'ils sont rangés sur les tablettes, cottée(sic)chacunne(sic)d'une lettre ou d'un chiffre. Magi 1764”という手稿である。我々が目下入手しているのはこの目録のみであるので，目録自体がどのようにして作成されたのか，一切詳らかにしない。だが，およそ以下のように推測できよう。まず，上記のタイトルから 1764 年に作成されたと考えられるが，65 年以降に出版されたものも掲載されており，一番新しいのは 1793 年のものである。また，1 頁に 3 点の図書しか記載されておらず，大きめの字でゆったりと書かれている場合もあれば，1 頁に 20 点以上もが記載されている場合もあり，その際には字の大きさはまちまちである。従って，まず 1764 年に一度作成した後，新たに購入するたびに書き加えていったものであろう。同じく上記のタイトルから，目録を作ったのがマジ自身であったこともわかる。ただし，例えば通し番号 364（項目は H）には“hebraique... vid. grand-maire”とあるのだが，この“grand-maire”は“grammaire”の誤記であり（項目 G の通し番号 354，Grammaire hebraïque... を指す），この点から口述筆記によっていたことが窺われる。もちろん，マジの口述を筆記したのが誰かは不明だし，また特に重要とも思われない。ただ，マジが（経済的な意味でも，職業的な意味においても）なんらかのかたちで書記

を使うことのできる階層に属していたことを確認すれば足りる。

マジがいかなる理由で自己の蔵書を記録に残すことにしたのか，我々には明らかではない。各書物の後にそれを置いたテーブルの番号（もしくは「たんすの中」「暖炉の脇」などの注記）が記されており，また書物によっては「紛失」「紛失，のち再発見」「〇〇氏に貸与」「貸与，のち返却」などの書き込みがあるところから，自己の書物をきちんと管理するのが主目的だっただろうことは想像に難くない。ただ，これが所有者による自分用の目録だったことには，利点とともに欠点もある。まず利点であるが，この目録に記載されているのがおそらくマジの蔵書の全体であっただろうと推定できることである。私蔵書の研究には遺産目録が用いられることが多い。しかしこの場合には，蔵書の遺産としての価値のみが問題なのであるから，経済的に価値の低い書物は省かれてしまったり，「××，ほか〇冊」と記載されたりする場合がある。また遺産の売り立て目録だと，禁書のように公表がはばかられるものや，遺族が手元に残そうとするものは意図的に削除される。いずれの場合にも，蔵書の全体像は明らかにはならない。しかしマジの場合には，特にそのような削除を行なう必然性がない。むしろ，蔵書管理のためにはすべてを記載したはずなのである。

だが，目録が個人用で，マジ自身にわかればよいものだったために，記載が時として大雑把であり，統一がとれていないという欠点もあわせ持つ。タイトルの表記が不十分であったり，時には著者名のみで書名は記されていなかったりするため，どの書物であるか特定できない場合も生じるのである。また，著者名・刊行地・出版年・書物のサイズなどの記載ももれている場合が多い。従って，本稿で以下に示す統計は，可能なかぎり正確を期しはしたが，所詮は概数であって，細部にいたるまで厳密なものではないことをあらかじめ断っておきたい。なお，以下に記す書物の数は，書名別の点数である。薄いパンフレット1冊であっても，全部で何巻かからなる大著であっても，同じように1点と数えるのである。

II. 蔵書の概要

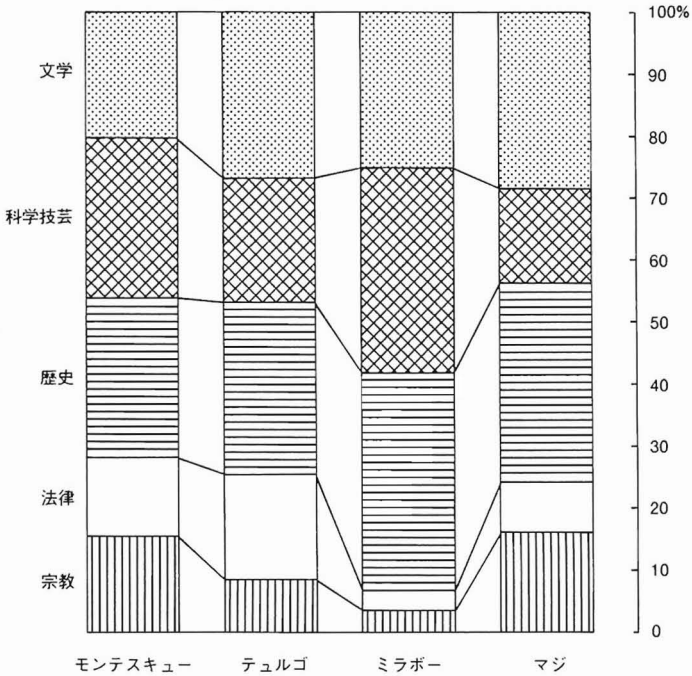
目録の通し番号は1105までふられている。しかし番号のないものが2点あり，さらに466番と467番の間には466B番が，同じく754番の次には754B番，762番との次には762B番が挿入されているので，合計1110点となる。しかし，“grand-maire”（＝“grammaire”）の例で示唆したように，同一の書物が複数回にわたって記載されることも多い。目録は原則としては書名によって分類されているのだが，場合によっては著者名によって記載されている場合もあれば，上の例のように書名の一部をキータームとして，そのタームの個所にも記載されている場合もある。言い換えれば，基本的には書名目録なのだが，著者名目録・分類目録の要素も一部含んでいることになる。それで，重複して記載されているものを整理すると，マジの蔵書は一応840点だったと考えられる。その内容を，これまでの書物研究の例に倣い，18世紀に行なわれていたように宗教・法律・歴史・科学技芸・文学の5項目に分類すると，宗教書133点，法律書68点，歴史書267点，科学技芸書129点，文学書237点，（不明6点）となる。参考までに，この構成比率を他の3人の蔵書と比較しておこう。その3人とは，①『法の精神』の著者で，絶対王政に批判的な法服貴族のモンテスキュー，②同じく知識人ではあるが，王政の改革をめざす開明官僚のテュルゴ，③著名な経済学者を父に持ちながら，自らは放蕩無頼の生活を送った後，フランス革命の初期に大活躍するミラボーである（グラフ1・表1)[3]。ミラボーの蔵書に宗教書と法律書の極端に少ないことが目立つ。彼とマジの法律書が絶対数でも相対比においても他の2者より明らかに少ないのは，法の実務に携わらなかったことの反映であろう。マジの蔵書は歴史書が相対的にやや多く，その分だけ科学技芸書の比率が少ない。当時の思潮が，『百科全書』に明らかなように，科学・技芸を次第に重視するようになっていたことを考えると，これはマジの特質を示して

表1

	宗教	法律	歴史	科学	文学	合計
モンテスキュー	500	415	826	841	659	3241
テュルゴ	399	799	1303	950	1269	4720
ミラボー	100	93	1003	940	716	2852
マジ	133	68	267	128	238	840

（注）マジの蔵書の合計数は分類項目不明の6点を含む。

グラフ1



いると言えよう。つけ加えれば，マジは『百科全書』は持っていない。

また，これを出版年別に整理すると，表2のようになる。すなわち，中心になっているのは18世紀に刊行された，いわば新刊書であるが，17

表 2

	-1599	1600-49	1650-99	1700-49	1750-99	17c	18c	不明	合計
宗教	22	10	30	30	9	0	0	32	133
法律	7	9	16	8	9	0	1	18	68
歴史	34	36	59	64	21	1	3	49	267
科学	8	12	17	38	26	0	2	25	128
文学	15	33	38	69	27	3	5	48	238
不明	1	0	0	0	1	0	0	4	6
合計	87	100	160	209	93	4	11	176	840

（注）17c. 18c. は出版の世紀は推定できるが，年代の確定は不可能なもの。

世紀やそれ以前のものも比較的多いことがわかる。18 世紀後半に出版された新刊書には（実際に出版された書物の点数と対比すれば）それほどの関心を示しておらず，17 世紀の刊行された書物に対する興味の方がむしろ強かったようである。一般的には，新刊書は自らの意思で入手したもの，17 世紀以前のものは遺産相続などによるもので，必ずしも当人の関心を反映しないものと考えられるだろうが，マジの場合には必ずしもそうとは言えない。もちろん親族などから譲り受けた書物も多かったはずだが，彼は古書収集が趣味だったようで，前稿にも記したようにパリの古書店でトゥルーズ文芸アカデミーの 16 世紀の議事録を発見・入手したこともあり，蔵書目録中にも別人（ロラゲ伯爵）の蔵書の売り立て目録があって「パリでの販売の際に私が記した価格記載」と注記されている[4]。革命期のものと推測される，地元の修道院の蔵書目録（手稿）[5]もある。正確な断定はできないが，17 世紀以前の書物でもマジ自身が購入したものも多いのではないかと思われ，同時代に出版されたものだけが自分の意思で購入した書物とアプリオリに想定するのは憚られるのである。

同じ蔵書を出版地別に整理したのが，表 3 である。出版地の不明なも

表3

		宗教	法律	歴史	科学	文学	不明	合計
フランス	アヴィニョン	0	3	2	0	0	0	5
	リヨン	14	2	20	11	13	0	60
	パリ	49	20	85	31	92	1	278
	トゥルーズ	7	11	19	5	8	1	51
	その他	1	3	8	1	4	0	17
オランダ	アムステルダム	3	3	19	12	18	0	55
	デン・ハーグ	0	0	7	5	9	0	21
	ロッテルダム	0	0	4	3	0	0	7
	その他	1	1	2	2	1	0	7
スイス	バーゼル	3	0	6	1	0	0	10
	ジュネーヴ	2	0	6	2	3	0	13
	その他	1	0	3	0	2	0	6
ドイツ	ケルン	6	0	2	2	3	0	13
	フランクフルト	1	0	3	2	2	0	8
	その他	0	0	3	1	2	0	6
イギリス(ロンドン)		1	1	5	3	11	0	21
ベルギー	アントワープ	2	0	2	1	3	0	8
	ブリュッセル	2	0	2	1	3	0	8
	その他	0	0	0	0	2	0	2
伊	ローマ	1	0	3	0	1	1	6
	その他	1	0	3	2	0	0	6
スペイン(マドリッド)		0	0	0	1	0	0	1
その他		1	1	2	1	4	0	9
不　明		37	23	61	41	57	3	222
合　計		133	68	267	128	238	6	840
出版地数		17	12	33	21	26	3	55

のが全体の 1/4 強もあるので，あくまで参考資料でしかないのだが，パリで出版されたものが圧倒的に多いことは一目瞭然である。首都の文化的ヘゲモニーが南仏にまで及んでいたことがここからわかるのだが，これはマジだけについてのことではない。同じことはドルトゥ・ド・メランの蔵書を分析した D. ロッシュによっても[6]，ポワティエの亡命貴族・聖職者の蔵書を分析した長谷川輝夫氏によっても[7]，指摘されている。むしろ，ここでは地元トゥルーズの出版物が 51 点もあることに注目しておきたい。伝統的な出版業のあるリヨンとほぼ肩をならべているのである。歴史書と法律書がトゥルーズでの出版物の中心であるが，歴史はトゥルーズ地方史，法律はトゥルーズを中心とするラングドック地方の慣習法のものが中心である。マジの教養・関心のなかでは地元のローカルな世界が，比較的に大きな位置を占めているのである。

この出版地別分布を，各書物の言語（表 4 参照）と対比すると，いささか逆説的な事実に気がつく。表 3 にあるように，ドイツで出版された書物を 27 点，ロンドンで出版されたものを 21 点，マジは所有している。他方イタリアのものは 12 点のみであり，スペインでの出版物はわずか 1 点にすぎない。ところが，彼の蔵書は，言語別に分けると，フランス語のものが全体の約 3/4，ラテン語が 1/4 弱で，それ以外はイタリア語とスペイン語，および南仏の地方語であるオック語が全部あわせて 2% 弱ほど含まれているに過ぎない。つまり，マジの教養世界はきわめてラテン的，と言うよりは，実質的には母国語のみなのであり，英語・ドイツ語の書物は 1 冊も持っていない。英独の作家にも一定の関心を示してはいるが，すべて翻訳もしくはラテン語版で所持しているのである。この点で，言語学者でもあったテュルゴの蔵書と比較するのは所詮無意味であるにしても，ミラボーやドルトゥ・ド・メランと較べても，マジの蔵書は明らかに見劣りがする。彼の教養の特徴ないし限界を示すものとして，指摘しておくべきであろう。

表4

	宗教	法律	歴史	科学	文学	不明	合計
フランス語	85	52	192	105	180	4	618
ラテン語	47	16	67	19	54	2	205
イタリア語	0	0	7	3	2	0	12
オック語	0	0	0	0	2	0	2
スペイン語	1	0	1	1	0	0	3
合　計	133	68	267	128	238	6	840

III. 宗教書

蔵書全体の統計的なまとめは以上にして，各分野の内容を見ていこう。最初は宗教書である。全部で百数十冊にすぎないので，下位分類にはこだわらないことにしよう。マジは聖職者のおじを二人持ち，彼自身も当初はおじの後継者として聖職をめざしていた。彼の蔵書でまず目につくのが「実用的」な宗教書，すなわち聖職者という職業をこなすための書物である。聖書は，サシによるフランス語訳やジュネーヴ版にもとづく聖書，ジュネーヴで出版された新約聖書[8)]も含め，全部で12点（16世紀に刊行されたもの1点，17世紀8点，18世紀2点，不明1点，またラテン語のもの7点，フランス語5点）持っている。それとは別に詩篇が6点（16世紀2点，17世紀3点，不明1点，ラテン語4点，フランス語2点）あり，さらにミサ典書5点（13世紀の手稿本1点，16世紀1点，18世紀2点，不明1点，ラテン語4点，フランス語1点），祈禱書4点（16世紀1点，18世紀3点，すべてラテン語），説教集5点（16世紀3点，18世紀2点，ラテン語2点，フランス語3点）が見られる。決疑論に関する事典が2点[9)]見られるのも，また『カトリック教会の諸祭儀の実践』[10)]のような書物があるのも，「実用性」に関わっているのかも知れない。も

っとも，12 点の聖書のうち 18 世紀のものは 2 点のみ（そのうちの 1 点，サシ訳の仏語版は 1705 年）で，他は 17 世紀および 16 世紀（1 点のみ）だから，二人のおじから譲られたものも含まれているのであろう。逆に，ミサ典書と祈禱書には 1 点ずつ，1770 年代のものが見られる[11]。聖職を最終的に断念した後にも，こうした書物への関心は続いていたようである。ただし，ともにトゥルーズ関係であるから，後に見るようか郷土史的関心だったのかもしれないのだが。

神学に関しては，教理問答や『問答形式による司牧教書』のような一般信徒向けのもの[12]からトマス・アクイナスの『神学大全』[13]まで，種々のレヴェルの書物が見られる。理論的な神学書か信仰・信心業の書物かを書名だけから判別するのは困難なので，両方を一括すると，約 40 点にのぼる。自分が専門的な勉強をするのに必要なものと，教区民にやさしく教える際に参考にするものとが入り交じっていたように思われる。教父の著作としては聖ヒエロニムスのものが 2 点，アレクサンドリアのクレメンスのものが 1 点，およびディオニシス・アレオパゴスのものが 1 点[14]あること，トマス・ア・ケンピスの『キリストのまねび』が 3 点[15]，マシヨンの著作が 4 点[16]あることも，ここでつけ加えておこう。

我々にとって関心があるのは，マジの蔵書が当時の思想や社会の状況をどれほど反映しているかである。まず，カトリック改革の端緒となったトレント公会議に関する書物が 6 点（16 世紀 2，1722 年 1，不明 3，ラテン語 5，フランス語 1）。これは，蔵書数全体との比率からいって，少ないとは言えない。またジャンセニズム関係では，教父の聖アウグスティヌスの著作が 6 点[17]あるほか，アンジェリク・アルノーの書簡集とパスカルの『田舎人の手紙』，およびウニゲニトゥス教書をめぐる文書集が見られる[18]。余談ながら，テュルゴはアウグスティヌスの著作を 1 点しか持っておらず，モンテスキューは 5 点持っている[19]。これは単なる偶然とみなすべきであろうが，それでも，絶対王政を支えるテュルゴと高等法院の院長モンテスキューの立場の相違をみごとに反映しているようで，興味

深い。しかしてマジは，そのモンテスキューよりもさらに1点多くアウグスティヌスを持っているのである。ガリカニズムに関するものは，次章の法律書の中にフランス教会の自由を論じるものが見られるが，宗教書としては1冊もない。プロテスタンティズム関係も6点（すでに触れたジュネーヴに関連した聖書2点を含めれば8点）ある。ここには，ルター派の神学者オジアンデルによるカトリック批判（『権威たりえぬ教皇』1610年）やジュネーヴの牧師ロッシュによる護教論（1740年）もあれば，『悪魔とルターの会話』（1673年）というルター批判もあり，また『プロテスタントに対する寛容』（不明），『プロテスタントの不満に対する回答』（1686年），『いわゆる宗教改革』（1684年）といった中間的な書物も見られるのである[20]。大雑把に言えば，トレント公会議や反宗教改革は17世紀の古典主義時代に人々の関心を引いたが，1670年頃にはそうした流行は下火になり[21]，啓蒙主義の時代にはジャンセニズムをめぐる論争が人々の興味を引くようになる。マジの蔵書にはそれら両方がふくまれているのである。

マジはロックとスピノザの宗教論も1点ずつ所持している[22]。また『百科全書』に関与したために問題となったアベ・プラドの博士論文も手に入れている[23]。『世界の主要宗教についての公正な検討』（不明）なる書物や『コーラン』（1649年）も蔵書に含まれ，13世紀のトゥルーズにおける異端審問の記録も手稿で入手している[24]。決して網羅的・体系的とは言えないが（そもそも，千冊にも充たぬ蔵書しか持たない地方の一文化人に，網羅的な集書を期待できるだろうか），マジの関心は各方面に広がっていたのである。

IV. 法律書

教会法が15点（22.1%），世俗法が53点（77.9%）である。教会法に関しては，聖職禄を論じたものが2点[25]，カトリック教会全般について

の法を論じたものが5点[26]であって，残り8点はフランス教会に関わる。フランス国内での教会法が2点，ガリカニズムに関するもの4点（ガリカン教会の自由を論じるものが3点と1516年の政教協約を論じたものが1点），地元トゥルーズの教会に関するものが2点である[27]。

古代に関しては，十二表法に関するものが1点，ユスティニアヌス法典が2点，ローマの慣習法を論じたものが2点，古代ヘブライ法が1点見られる[28]。中世については，シャルルマーニュとルイ1世の法令集[29]など3点ほどがあり，法の実務に関するものはフェリエールの実務事典[30]など数点見られる。また法理論ではドマ，コキーユ，ベルトランドゥスの著作集，マキャベリの『君主論』，ベッカリアの『犯罪と刑罰』，ルソーの『社会契約論』などがある[31]。

法律書の中心を占めるのは，近代フランスの法および政治である。ルイ14世・ルイ15世の勅令・政令・法典などが10点ほどあるほか，イエズス会の裁判の記録，1773年のオルレアンでの地方三部会の記録も見られる[32]。また貴族および領主制を論じた書物も6点（17世紀3点，18世紀2点，不明1点）存在する。さらに，トゥルーズとラングドック地方の慣習・制度・特権を扱った書物も9点ほど（13世紀の手稿1点，16世紀2点，18世紀2点，不明4点）指摘できる。

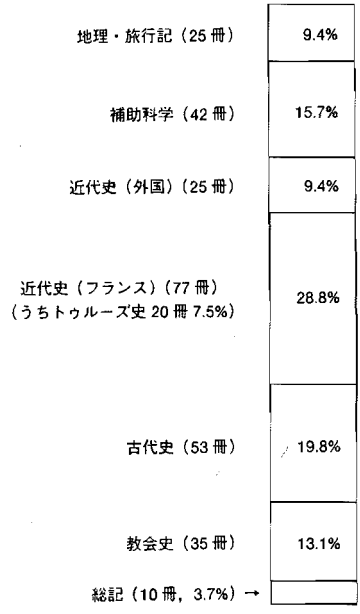
自然法・国際法が1冊も見られないのは，ただの偶然だろうか。地理的な広さや重要性との比較からすると，マジの蔵書ではトゥルーズに関する書物が相対的に多く，フランス一国に関するものがそれに次ぐ。すなわち（法律書以外についても類似のことが言えるのだが）マジの関心は18世紀のトゥルーズを中心として同心円状に広がっており，輪の半径が延びるにつれて相対的に手薄になるのだが，その輪は実用性という限度を超えて広がることはほとんどなく，抽象的な理論には届かなかったようである。

V. 歴史書

歴史は，文学とならんで，マジがもっとも関心を抱いていた分野である。267冊の内訳はグラフ2のようになる。総記の中にはボシュエの『世界史』，ペローによる古代と近代の比較論[33]などがみられる。教会史では，教皇史（教皇選挙の歴史を含む）が4点（17世紀2点，不明2点），教会の全般的歴史が5点（16世紀3点，18世紀2点），トレント公会議史が1点（1629年）なのに対し，フランス教会史は，全般的なものが4点（17世紀3点，18世紀1点），個別のテーマに関するものが5点（12世紀の手稿1点，不明4点），計9点が見られる。またマンブールによるギリシア正教史・アリウス派の歴史・ルター派の歴史が1点ずつ[34]，さらに教会祭儀の歴史が1点[35]見られる。伝記は10点あるが，そのうちの1点は諸聖人伝，1点は教会人名事典である[36]。残り8点のうちの5点はフランス人聖職者の伝記（17世紀2点，18世紀2点，不明1点）であり[37]，またイタリア人の教皇シクストゥス5世の伝記（1709年）[38]も，トレント公会議を主宰するとともにアンリ4世の即位の際に大きく介入した人物のものであるから，フランス史に関わりがあると言えよう。なお外国人の伝記のうち1点は中世の女性教皇ヨハンナに関するもの（1647年）[39]である。また特殊なものとしては，1743年にロンドンで刊行されたフリーメーソンの歴史や，ルアンで刊行された『オラトリオ会司祭による迷信的慣行の批判的歴史』（不明）がある[40]。

古代史は実質的にはローマ史である。古代全般を扱ったものが6点[41]，ヨゼフスのユダヤ史とアルノ・ダンディイによる仏語訳[42]，ヘロドトス，トゥキディデス各1点，プルタルコス2点[43]も見られるが，他はすべてローマ史（およびローマの歴史家の著作）で占められている。古代の作家ではカエサル（2点，1678年の仏語版と1746年のラテン語版），クイントゥス＝クルティウス（2点，1692年の仏語版と刊行年不明のラテン語

グラフ2



歴史書　内訳

版），サルスティウス（3点，1564年のラテン語版，17世紀の仏語版，1733年の対訳版），ソリヌス（2点，1603年と1632年，ともにラテン語），スエトニウス（3点，1648年と刊行年不明のラテン語版，1689年の仏語版），タキトゥス（1点，1622年，ラテン語），ティトゥス＝リヴィウス（2点，1617年の仏語版と1625年のラテン語版），ユスティヌス（3点，1640年と1707年のラテン語版，1697年の仏語版）など20点であり，近代の作家によるものはモンテスキューの『ローマ盛衰史論』（不明）[44]など21点が確認される。

歴史書の3割弱を占めているのが，フランス史関係である。まず，フランス史全般を扱ったものが13点ある（17世紀5点，18世紀4点，不明4点）。ただしそのうちの5点は概説（abrégé）であり（17世紀2点，18世紀2点，不明1点），他にも『教理問答形式によるフランス史入門』『肖像画によるフランス国王史』[45]などが見られる。他方ではクロード・シャロンの『フランス史』[46]も所持しているが，全体としては初歩的入門書の方が多い。

比較的に大きな比率を占めているのが，伝記やメモワール，または国王の時代史など，歴史上の人物に関するものである。時代順に見ると，中世が3点，すなわちアリエノール・ダキテーヌの伝記，フィリップ2世に関する逸話集，およびフィリップ4世と教皇ボニファキウス8世の抗争

の歴史である[47]。ルネサンス期は4点で，騎士バイヤール伝，カトリーヌ・ド・メディシス伝，アンリ2世伝，およびモンブランのメモワール[48]。アンリ4世の伝記は3点あり，ブラントームのメモワールも所持している[49]。ルイ13世期では，リシュリュー伝2点，王母マリー・ド・メディシスの擁護論，モンモランシ公爵伝[50]。フロンド期は2点（マザリナド集とレツ枢機卿のメモワール）が確認される[51]。ルイ14世期は，国王個人よりも時代全体を扱うものを含めることになるが，国王に関するもの4点（ヴォルテールの『ルイ14世の世紀』を含む），ヴィラール公爵とブーランヴィリエのメモワール各1点，コンデ公爵伝1点の計7点であり[52]，あとはブルボン家の系譜図とダミアン事件の裁判文書集である[53]。『アントワネットについての歴史的試論』なるパンフレットも所持しており，タイトルしか記されていないために確定はできないのだが，マリー＝アントワネット諷刺（もしくは誹謗）の文書である可能性は充分にある[54]。

以上の他は，ガロ＝ロマン期に関するものが4点（すべて17世紀）[55]，ボルドー（不明），クレルモン（1607年），ニーム（1663年），パリ（1766年），ルアン（1587年）の各都市史が1点ずつ[56]，1667年度の偽貴族の台帳[57]など個別特殊なテーマに関するものが7点である。ピエール・ベールの事典（1698年）[58]もここに分類しておこう。

分類の上ではフランス史の一部だが，量的な重要性のために独立して取り上げたいのが，トゥルーズ史である。都市の歴史を扱ったものが7点，これにトゥルーズ伯爵史と市役人の貴族の歴史，トゥルーズの史跡を扱ったものを含めれば10点となる。刊行年は16世紀が2点，17世紀が5点，18世紀が2点（不明1点）だから，色々な時代のものを集めたと言えよう。刊行地はパリが1点，不明1点，ほかはすべてトゥルーズである。地元の史家が地元で出版したものが中心なのである。トゥルーズの文芸アカデミーであるジュ・フロローの歴史を扱ったものも，同じく9点（16世紀1点，18世紀5点，不明3点）確認されるほか，毎年出版されるジ

ュ・フロローの作品集の収集にも努め，革命期には最終的に，1705年度・1708年度・1709年度が欠番ではあるものの，バックナンバーをほぼ揃えるに至っている[59]。このアカデミーは，独自の中世文化を誇っていたラングドック地方が北フランスからのアルビ十字軍に蹂躙された後，オック語の文芸を保護するために作られたと伝えられており，単なる文芸団体ではない。トゥルーズの人間にとっては自分たちの文化的アイデンティティ・北フランスと首都パリに対する対抗意識と優越感のシンボルなのである[60]。そのアカデミーの歴史にマジが大きな関心を示していることには注意を払っておかねばならない。ラングドック史1点[61]もここに区分しておく。

外国史はヨーロッパが中心であり，扱っている時代は，『イギリス史』，『ドイツ史』[62]のような概説書を別にすれば，17世紀以降が多く，ルネサンス以前は見られない。ドイツ史が4点（カール5世伝，フリードリッヒ＝ヴェルヘルム1世伝を含む）[63]，イギリス史4点（クロムウェル伝2点を含む）[64]，イタリア史4点（ヴェネティアとトルコに関するボンヌヴァルのメモワールを含む）[65]，スウェーデン史3点（クリスティーナ女王伝，ヴォルテールのカール12世伝を含む）[66]，オランダ史1点，ロシア史1点（ピョートル大帝伝），スペイン史1点（枢機卿アルベローニ伝）[67]である。また1787年におけるヨーロッパの各宮廷の状況に関する書物も1点[68]見られる。しかしマジの視野はヨーロッパに限定されていた訳でもない。アジアについては，ペルシア史が2点とトルコ史が1点（イタリア史に含めたボンヌヴァルの著作を含めれば2点）があり，新大陸に関してはヴァージニア州史とコルテスのメキシコ征服史が1点ずつある[69]。またレイナルの両インド史[70]もここに区分できよう。

地理・旅行記に分類される書物をここで見ておこう。本来の地理学書は10点（16世紀3点，17世紀1点，18世紀5点，不明1点，18世紀刊行の5点は仏語，他はラテン語），うち2点は古代の作家（ストラボンとプトレマイオス[71]）のものである。ロンドン案内が1点，バスク地方の

記述が1点あり，またアジア・アフリカ・アメリカについての見聞録が1点ある[72]が，それ以外は地理学全般の概説書である。残り15点が旅行記であるが（17世紀1点，18世紀11点，不明3点），『海上および陸上の旅行の全般的歴史』[73]のように旅行地を特定できないものが4点ある。それ以外の11点を見ると，フランス国内が2点，イタリア1点，南米4点（スリナム，パラグァイ，ペルー，フォークランド），アジア3点（トルコ～ペルシア～インド，タイ，インド）である[74]。歴史書と合わせると，中近東と中南米への関心が窺われる。アフリカと日本を含む儒教文化圏は，ない訳ではないにせよ，かなり手薄である。

最後に補助科学であるが，これはほとんど古銭学に尽きると言ってよい。書名に「古銭学（numismata）」と入ったラテン語の書物が16点（16世紀2点，17世紀7点，18世紀4点，不明3点），「メダル」と入ったものが15点（16世紀2点、17世紀5点、18世紀1点，不明7点，うち2点はイタリア語），「貨幣」と入ったものが5点（16世紀1点，17世紀2点，18世紀1点，不明1点），計36点が古銭学書である。概説書・手引き書のほか，古代（ギリシア，イスラエル，シリア，ローマ，トルコ）およびルイ14世に到るまでのフランスの貨幣の解説書が見られる。マジ自身，蔵書目録の末尾に古銭学書だけ抜き出した一覧表を作っており，関心の高さが窺われる。残りの6点は書誌学（うち5点は蔵書ないしは売り立て書の目録）であり[75]，マジが彼なりに書物のコレクターだったことを示している。

VI. 科学・技芸

書名からでは内容を判断できないものも少なくないので，正確な分類は困難であるが，哲学書は一応54点と考えられる。古代哲学は9点のみである。ギリシア哲学としては，プラトン著作集とアリストテレス著作集，およびセクストゥス・エンピリクスのピロン論の3点が見られる[76]。残

り6点はローマのもので，エピクテトスの抜粋集，ルクレティウスの『物の本質』，アプレイウス著作集，セネカ著作集2点，タキトゥスの『道徳論』である[77]。これら9点のうち，エピクテトスとセネカ著作集のうちの1点およびタキトゥスの計3点がフランス語訳であり，他の7点はラテン語である。

残りが近代哲学ということになるが，それらを1700年を境に二分してみよう。まず1700年以前のものであるが，著者の生没年からそれと分類できるもの（書物の刊行年は18世紀の場合6点も含む）は11点，刊行年がこれに当たるものは7点である。それに対して，著者が18世紀のものは17点，刊行年が18世紀のもの（著者が17世紀以前とわかるものは除く）は8点である（このほかに不明が4点）。問題はこの最後の場合である。単に書誌的データの不足（ないしは我々の無知）のために著者が17世紀以前の人物であることを確定できずにいるだけということもあり得るからである。しかし，それほど有名ではない著作が時代を超えて版を重ねた例は，あったとしても多くはないであろう。従って，これまでの傾向とは異なって，哲学書においては同時代の著述家への関心が優越していると考えてよい。特に，著者よりも書物そのものに注目するなら，1700年以前に刊行されたものは12点のみなのに対して，18世紀に刊行されたものは31点にのぼるのである。ただし，これら哲学書の中には『道徳格率』，『もっとも優れた著作家たちからの引用による，種々の道徳問題に関する思想選集』『格言選集』のような通俗的なものも数点あり，また『魔術・呪術・悪魔憑き，およびそれらを見分ける方法についての論』のようなオカルト的なものも含まれているのである[78]。

17世紀以前では，まず16世紀のエラスムス『痴愚神礼賛』とシャロンの『知恵』（2点）がある[79]が，それ以外はほぼ17世紀の学者のものである。フランス人ではボルドロンの『道徳についての思索』，マルブランシュの『形而上学についての対話』，ベイルの『彗星論考』，フェヌロンの『哲学論集』，ラブルイエールの『人様々』などがあり[80]，外国人のも

のではロックが2点（『作品集』と『人間知性論』）とライプニッツが1点（『試論集』）がある[81]。18世紀に入ると，現在の我々がいわゆる啓蒙思想として理解している，馴染みのある名前がいくつも登場する。ダルジャンス侯爵の『ユダヤ人の手紙』，『孤独の哲学者』，『道徳書簡』，フォントネルの『選集』，デュクロの『習俗論』，モンテスキューの『法の精神』，ドルバックの『良識』[82]などである。ジャン＝ジャック・ルソーは3点（『エミール』，『選集』，『抜粋集』），ヴォルテールは3点（『哲学辞典』，『歴史哲学』，『百科全書に関する疑問』）記載されている[83]。しかし同時にポリニャック枢機卿の『反ルクレティウス論』[84]のような伝統擁護の作品もある。またモンターニュ派のテロリストであるルキニオが1793年に出版した無神論的な内容のパンフレット『破壊された偏見』[85]もマジは入手している。これらのうちヴォルテールの『哲学辞典』とドルバックの『良識』には，末尾にマジによる反論が書き込まれている旨，目録に注記されているから，書物を持っていることが即ち共感したことを意味するものでないことは言うまでもない。それにしても，同時代の国内の思潮にはかなり目配りがきいているのではないだろうか。外国については，ヴォルフ哲学の解説書[86]が1点見られる。ただし，既成の「啓蒙」概念をいったん御破算にして，当時の人の読書内容を探ってみようという我々の問題設定からすると，重要なのはむしろ上記以外の無名の書物かも知れない。それらは，まさに無名ゆえに書誌的に確認が取れていない場合があるのだが，マジの目録にある，上記以外の18世紀の作品を年代順に記すと『新デモクリトス，または精神の慰め』，『オクサンスティルン伯爵の思想』，『哲学的考察』，『テラミド，またはインド哲学者とフランス人宣教師の対話』（マイエ著），『謎に満ちた宇宙』（カラッチオリ著）である[87]。

天文学は2点で，ともに16世紀に出版された宇宙論である[88]。数学は2点，ともに18世紀のもので，パルディの数学論集とバレームの計算表である[89]。物理学は6点あるが，そのうちの3点は18世紀前半に刊行された概説書，1点は『火の力学』，残り2点はマジ自身による物理学関

係の手稿である[90]。17世紀の科学革命は，仮にマジの視野に入っていたとしても，概説書から得られる知識のみで，みずからニュートンなどの著作を読んでみるほどの関心は引かなかったようである。

博物学は多少は充実している。古代の作家ではプリニウスが3点とクセノフォンの『狩猟論』がある[91]。17世紀のものでは，クロード・エリアンの『精気論』，オランダ人ボートの『宝石誌』[92]など4点，18世紀のものではモーペルテュイの『物理的ヴィーナス』，ビュフォンの『鳥類博物誌』(2点)，プルッシュの『自然の景観』，マイイの『自然の主要な驚異』，およびジャンサンヌの『ラングドックの博物誌』がある[93]。また『ラテン語韻文による植物学と岩石学』[94]なる刊行年不明の作品もみられる。

化学書は1点，1756年のマケーによる概説書がある[95]。

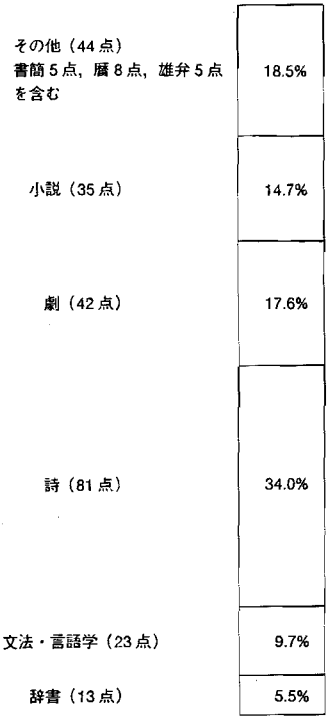
医学は6点で，ヒポクラテスのイタリア語訳が1点，ベルトルッチの医学書とフィチウスの医学書が，ともにラテン語であり，残り3点は『主な治療法』，『健康の保持』，『医療』で，いずれも通俗的な健康法・治療法に関するものとみられる[96]。

農業・工芸・実用書としては，馬の世話1点，道路工事1点，度量衡1点，道具1点，測量法2点，農学2点（1点は古代ローマの農事書），建築3点がある[97]。

経済学書は11点ある。ヴォーバンの『王国十分の一税』，コルベールの『政治的遺書』，ラ・メルシエ・ド・ラ・リヴィエールの『政治社会の自然的秩序』，ミラボーの『租税の理論』と『人間の友』(2点)，テンプルの著作集が眼を引く[98]。この他に『反金融家論』『貧富の溝を埋めるための意見』という2点の書物，『行政事典』，および1779年刊行のバーナード・ワードの『経済計画』(スペイン語）を所持している[99]。

その他の分野では，『歌唱法』と『歌曲集』の2点の音楽書，3点の『絵画論』(1点はレオナルド・ダ・ヴィンチ著)，『オンブル遊び』『双六遊び』『遊びのアカデミー』の3点の娯楽書，『ヤコブの杖，または財宝

グラフ3



文学書　内訳

を見つける方法』『手相学・人相学入門』『ノストラダムスの予言』のようなオカルト的なものなどが見られる[100]。

VII. 文学

辞典と文法・言語学から見ていこう。フランス語辞典は4点ある。モレリの辞書（1681年版），トレヴーのもの（1752年版），アカデミー・フランセーズのもの（1765年版），および1748年に出版された新語辞典である[101]。ラテン語辞典は3点あって，うち1点は1546年のロベール・エティエンヌによるものである[102]。その他に英仏辞典1点，8ヵ国語辞典1点，伊西仏の3ヵ国語辞典1点がある[103]。この他には，歴史辞典，寓話事典が1点ずつ見られる[104]。文法・言語学では，まず文法一般に関するものが4点（フェヌロンの『文法・修辞についての考察』，アブランクールの『翻訳論』[105]を含む），フランス語文法に関するものが5点（うち1点はレストーの文法教科書[106]），南仏語が2点[107]見られる。外国語では，ギリシア語の入門書・文法書4点（1点は1648年，もう1点は1662年，他の2点は不明），ラテン語文法書2点（1585年と1636年，ともにラテン語），ヘブライ語文法1点（1646年），スペイン語文法書2点（1701年と1714年），イタリア語文法書2点（ともに刊行年不明）が確認される。南欧語がほとんどなのはマジの蔵書全体の傾向と一致して

いるが，英語の書物を1冊も持たないにもかかわらず英仏辞典を所持していたことは注目しておいてよいだろう。18世紀後半においては，やはりイギリスは無視しえなかったのである。

詩と演劇は，18世紀には同一のジャンルとして分類されるが，マジの蔵書では両方あわせると123点となり，文学書全体の半分以上を占めている。まず，81点が確認される詩から見ると，ギリシア詩人ではホメロスの『イリアッド』（仏語訳）とピンダロスの作品集（仏語訳）の2点[108]。ローマ詩人では，ホラティウスの作品がラテン語と仏語訳を合わせて5点，オウィディウスは『転身物語』が2点（ともに仏語訳）に『悲歌』1点（仏語訳），ヴェルギリウスの作品集と仏語訳が1点ずつ，ルキアノスが1点（仏語訳），クラウディアヌスが1点見られる[109]。近代のラテン語詩人ではジョン・オーウェン，フィリップ・デュマ，マルシアリス（3点），サナザロ，ジャン・サントゥール，ジャック・ヴァニエール[110]など，14点見られる（16世紀3点，17世紀8点，18世紀2点，不明1点）。フランス語の作品では，16世紀の詩人としてはロンサールの作品集とクレマン・マロの作品集がある[111]。17世紀の詩人では，作品集はボワロー（2点），マレルブ，ヴォワチュール，セグレがあり[112]，個別の作品ではシャプランの『オルレアンの少女』，ラシーヌの『宗教』，ミルトンの『失楽園』の仏語訳など[113]計8点，合わせて17世紀の詩人のものは13点となる。18世紀の詩人では，作品集はグレセ（2点），ルフラン・ド・ポンピニャン，ジャン＝バチスト・ルソー，ベルニス枢機卿，ボローニュ，ヴァデ，およびドイツのゲスナーとイギリスのポープの仏語訳がある[114]。個別の作品では，デュラールの『神の偉大さ』，ボカージュ夫人の『ミルトンを真似た，地上の楽園』，フォントネルの田園詩[115]など7点が確認される。

諷刺詩・パロディとしては，古代の作家ではペトロニウスやジュヴェナリウスの『諷刺詩』，近代のラテン語詩人ではジャック・ヴァニエールの『パロディ詩集』，フランス語詩人ではレニエ，エドリン，カントミールの

各『諷刺詩』や，スカロンによるヴェルギリウスの作品のパロディ，フジュレによるアンリアッドのパロディがある[116]。

神話学と寓話も「詩」に分類される。神話学としては『問答形式による神話学』，バニエの『神話の歴史的説明』，ブルッシュの『天空の歴史』[117]など5点（17世紀1点，18世紀4点）がある。寓話は，ラテン語によるものが5点で，その内訳はイソップ2点，フェドルス，ヒジヌス，およびルネサンス期のアステミオ各1点となる[118]。フランス語では，ラモット，ラフォンテーヌ，リシェが1点ずつ[119]見られる。

演劇も42点で，詩に次いで点数の多い分野である。ギリシアでは，アリストファネスが2点（ともに仏語訳）とソフォクレスが1点（仏語訳）があり，ローマではセネカの悲劇集が2点，プラウトゥスの喜劇集とその仏語訳，テレンティウスの喜劇集とその仏語訳がある[120]。16世紀ではロワレの悲劇集，17世紀ではピエール・コルネイユ3点，ラシーヌ1点，モリエール2点をはじめ，シェヴルー，ルニャール，カピストロン，トマ・コルネイユの各作品集など[121]，18世紀ではヴォルテール戯曲集，父クレビヨン作品集，イタリア戯曲集，デトゥーシュ喜劇集などがある[122]。また出版年不明の喜劇集が2点，悲劇集が3点，戯曲集が2点あり[123]，主に17・18世紀の作品が収められている。ディドロの『一家の父』もここに収録されている。

一般に詩・演劇は伝統的な文芸ジャンルとされる。従って単純に言えばマジの文学的教養はかなり古典的だったということになるのだが，新しい文芸ジャンルとされる小説も36点で，決して少なくはない。古いものでは『ダフニスとクロエ』，ルネサンス期ではボッカチオの『デカメロン』，16世紀ではラブレーの作品集があり，17世紀ではバークレイの『アルジュニス』，ブラントームの『艶婦伝』，フェヌロンの『テレマックの冒険』，セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』，デフォーの『ロビンソン・クルーソー』など11点がある[124]。18世紀に入ると，息子クレビヨンの『ソファ』，マリヴォーの『マリアンヌ』，『成功した農婦』，『ファルサモン』，モ

ンテスキューの『ペルシア人の手紙』,『グニドの神殿』, マルモンテルの『道徳的コント』,『インカ』,『ベリゼール』をはじめ, テラソンの『セトス』, スウィフトの『樽のコント』, ヴィットの『トルコのスパイ』, フォントネルの『真面目で滑稽な楽しみ』, など[125], 全部で15点が確認できる。また,『プシケの愛』など[126], 書誌的記述が不十分なために著者や時代を確定できない作品も7点ある。こうして見ると, マジは小説の新刊にも無関心だった訳ではなく, それなりに時代の流れを追っていたと言えよう。

雄弁術の分野では, キケロの作品集や追悼演説集2点[127]など5点, 暦は1774年のアルマナ・ロワイヤル[128]など8点がある。また書簡では, キケロの書簡集, ヴォルテールの書簡の抜粋集, 著者不明の『カバラ的書簡, もしくは哲学的文通』など[129] 5点が見られる。その他には, ラテン語ではトリテミウスの文集2点, ヨースト・リプスの作品集, エラスムスの『対話集』, ピエトロ・ベンボの作品集など[130], フランス語ではモンテーニュの『エセー』, バルザック, スカロン, サン＝テヴルモンの各作品集[131]などがある。またロランの『文学研究論』[132]など文学総論に類するもの3点, さらにイギリス人スティールによる文芸新聞の仏語訳(『バビヤール』および『助言者』[133]) が見られる。

VIII. 総括

(1) 蔵書内容の傾向

個人の蔵書は, 決してその人が読んだ書物の総体ではない。また, ある書物を読んだからといって, 著者と意見を同じくするとは限らない。従って, 上に見てきたマジの蔵書の傾向は, 彼の思想の傾向を直接に指し示すものではないのである。それでは蔵書の分析が何の役に立つのかと言えば, その人が持つ知識の可能性をある程度まで明らかにできることである。蔵書は, 一般に, 3つのやり方で形成される。第一が購入である。買った本

をすべて読むとは限らない。しかし，少なくともある書物を購入したということは，その書物に関心を抱いたこと，その書物が自分の知的生活に無縁ではないと意識したことを意味するであろう。第二は遺産などによる譲渡である。マジの場合にも，彼を育て，自分の後継者にしようと考えていたおじから宗教書を譲られたであろうことは想像に難くない。既に記したように，聖書などは17世紀のものが多いし，トレント公会議関係の書物は17世紀の流行だった。また実用書の中にオンブル遊びの解説書があるが，これは17世紀にはやったトランプ遊びの一種である。これらは，財産として受け継いだだけで，読書の対象にはならなかったかもしれない。しかしマジがそのような書物を受け取る家庭，もしくは社会環境にあったということは，彼の知的環境の一端を示すものとして，やはり重要なのである。第三は献本である。大貴族や高位高官の場合だと，なんらかの意味での保護を求める著者からの献本があって，その結果，彼の知的世界とまったく無縁の書物が蔵書に加わることがある。しかしマジの場合にそうしたことが生じるとは考えにくい。もし献本があったとすれば，現在の我々の場合と同じく，知人が友情や尊敬のしるしとして送ってきたものであろう。法律書の中には，地元トゥルーズに関する書物でトゥルーズ自体で出版されたものが目立つ。このことは，こうした献本の存在を想像させる。この場合にも，献本はマジの知的交際の範囲，すなわち彼が持ちえた知識の可能性の範囲を示すことになるのである[134)]。

それでは，マジの蔵書からはどのような傾向が窺われるだろうか。第一に歴史書における古代ローマ史とトゥルーズ史への関心の強さが指摘できる。トゥルーズに関しては，歴史書のみならず，法律書におけるトゥルーズ地方の慣習法への関心からも，郷土史への愛着が窺われる。恐らく，ローマ史とトゥルーズ史は別々のものではない。トゥルーズにおいては，一般に，南仏には古代ローマの影響が直接に及んでいたために中世半ばまでは北仏よりも文化が栄えていたと考えられていた。故にトゥルーズ史への関心は必然的にローマ史への親近感につながるのである。もちろん，マジ

が古代ローマとトゥルーズの関係をどのように考えていたかは，蔵書からは判断できない。しかし，肯定するにせよ否定するにせよ，ローマ史とトゥルーズ史をつなげて捉える見方をマジが意識していたことは，蔵書からも推測できるのである。マジの特徴はむしろ，古銭学に関する書物の多さにあるといえよう。すなわち，歴史を古銭・メダルという具体的資料を通じて実証的に研究しようとしている点である。

歴史における古代ローマへの関心と重なりあうかのように，文学においてもラテン語作家や詩・演劇など，伝統的なジャンルへの強い関心が目立つ。辞書・語学書においても，1点の英仏辞典を例外として，古典語およびラテン系言語に限られているのも，伝統的・古典的な教養への愛着をうかがわせるのである。同時に，ラテン語作家のものであっても仏語訳版・対訳版がかなりみられることも，つけ加えておかねばならない。また，歴史においても文学においても，古代ギリシアへの関心はさほど高くないのである。

しかし，そうした伝統への愛着とうらはらに，小説および哲学においては18世紀の新しい思潮にも敏感である。マリヴォーやマルモンテルの小説や，いわゆる啓蒙思想の哲学などである。ヴォルテール・ルソー・モンテスキューの著作はかなりよく収集しているし，法律書に分類したベカリアの『犯罪と刑罰』，歴史書に分類したレイナルの『両インド史』やベールの『批判的事典』，科学技芸書のうちの経済学関係の書物も，ここに含めて考えることができよう。いうまでもなく，漏れも多い。マルブランシュはあってもデカルトはなく，ドルバックを持ちながらディドロやエルヴェシウスは購入していない。しかし，そもそもが総数840点しかない蔵書であることを忘れてはなるまい。比率から言えば，同時代の新しい思想・文学もかなりよく追っていたと言わねばならないであろう。ただし，英仏海峡やライン川の向こう側での思想動向を蔵書がほとんど反映していないのは，マジが生きていた教養世界の限界を示している。

宗教書も相対的に充実しており，マジの人格形成の基本はやはりキリス

ト教であったことが表れている。我々は，彼が1750年頃には聖職に進むのを断念したことを知っているのだが，その後にも宗教書の購入は続いている。すでに述べたように，蔵書は持ち主の思想内容を直接に反映するものではない。しかし特徴的な事実は指摘できる。すなわち，中世における異端審問や聖職者による搾取・蓄財についての資料をマジが収集していること，プロテスタントの護教書と反駁書をともに所持していること，ジャンセニズムやアリウス派にも関心を示していること，ヴォルテールの『哲学辞典』とドルバックの『良識』の巻末にはマジ自身による反論が書き込まれていることである。これらの点から推測すると，マジが経験した信仰上の危機とは，キリスト教から理神論や無神論に転じたのではなく，あくまでキリスト教の中に留まってはいるが，キリスト教内部にも様々な考えがあり，カトリックにも反省すべき点はあるのに，聖職者になって正統カトリックのみが真理を独占しているかのようにふるまうことはできないと考えたことではないのだろうか。もちろん，これはまったくの仮説であって，マジの著述を見なければ実証しえないことである。

古典古代を除いた外国に関する関心は，皆無ではないにせよ，あまり強くはない。ヨーロッパ近代史のほかは中南米と中近東・インドが中心である。ここにも，すぐ上で述べた宗教との関連を考えざるをえない。なぜなら中南米では，一方にはキリスト教徒たるべきスペイン人による残酷な侵略があり，他方ではイエズス会によるパラグァイの経営が比較的うまくいったからであり（コルテスのメキシコ征服史，マルモンテルの『インカ』，パラグァイにおけるイエズス会の活動記録がマジの蔵書にある），中近東のイスラム教は中世以来キリスト教と接触がある上，モンテスキューの『ペルシア人の手紙』以来，ヨーロッパ世界を相対的に見るためにイスラム教徒の視点が用いられた。またインドについては，『インド哲学者とキリスト教宣教師の対話』が蔵書中に認められる。18世紀には非ヨーロッパ世界への関心が急上昇したのだが，マジの場合には未知の世界に対する好奇心そのものが表面にでることはなかったようなのである。彼がヴォル

テールの著作にはかなり通じており，ヴォルテールはキリスト教批判のために中国の儒教道徳を高く評価したことを考えると，マジが儒教文化圏に関する書物を持たなかったのはいささか奇妙にも思われるが，彼にはキリスト教そのものを否定ないし批判するつもりはなかったのだと考えれば納得がいくであろう。同様の無関心は，自然科学についても言える。17 世紀の科学革命は思想や哲学の面においても重要な事件であったはずだし，ヴォルテールがニュートンをフランスに紹介して以来，フランス国内でも関心を引いていたはずである。18 世紀の新思潮にもそれなりの関心を示しているマジであるが，この分野に関しては通俗的な概説書しか持っていないのである。

(2)　民衆本との関わり

蔵書の傾向からその持ち主の人柄が色々に想像できる。しかしそれはあくまでも想像であり，仮説にすぎない。その仮説は彼が書いたものを分析することによって検証されねばならないのである。再び蔵書目録そのものにもどって，そこでの記述を問題にしたい。まず取り上げたいのが，蔵書の中に民衆本が存在する可能性である。当時の廉価本は，研究者によって「民衆本」「青本」「行商本」などの名で呼ばれているが，それぞれの呼称の含意は微妙にずれており，また「青本」1 語をとっても研究者によってどの範囲までを含めるか必ずしも一致していない[135)]。民衆本の問題を正面から扱うのが本稿の課題ではないので，ここでは「民衆本」の厳密な定義や境界については触れないまま，研究者相互のおよその同意のある部分だけを大雑把に民衆本とし，青本とほぼ同じものと考えておきたい。具体的にはアルフレッド・モランによるトロワの青本の目録とジュヌヴィエーヴ・ボレームによる青本一般の目録[136)]に掲載されているものを民衆本とみなしておく。どちらの目録も完全ではなく，実際に出版された民衆本は掲載されたものの数倍にのぼるはずだが，目録にないものは確認できないので，無視せざるを得ないのである。

さてマジの蔵書目録に見られる書名をボレームによる青本目録と対照すると，以下の7点を拾い上げることができる。最初がマジの目録の通し番号と書名，その後の（　）内がボレームの目録の通し番号と書名であり，綴りは原文のままである。

① 11, Academie des jeux, s. l. 1739 (7, Académie ou maison des jeux, Troyes, 1714?)

② 181, Comptes faits de Barrême, Paris, 1755, (197, Comptes faits de Barreme... en livres, sous deniers... Montbéliard, s. d.)

③ 1002, Jeu du trictrac, s. l. n. d. (365, L'excellent jeu du tricque-trac... Troyes, s. d.)

④ 563, Le marechal françois, s. l. n. d. (564, Le grand maréchal français, Paris, 1653)

⑤ 807, Les propeties de nostradamus, Lyon, s. d. (645, les prophéties de M. Michel Nostradamus..., Troyes, s. d.)

⑥ 860, Recueil de Remedes, s. l. n. d. (775, Recueil de remèdes faciles et domestiques..., Dijon, 1678)

⑦ 866, Robinson Crusoé, s. l. n. d. (811, Histoire de Robinson Crusoë, Epinal, s. d.)

この他に，ボレームの目録には779番にRecueil des oeuvres burlesques de M. Scarronがあり，マジもOeuvres de Scarronを持っているが，後者は6巻本であるから別物である。また詩人ヴァデの作品がボレームの目録には2点挙げられている[137)]。マジの目録にもVadéと記されているのだが，著者名のみで書名がないため，確定はできない。さて，すでに記したように，マジの蔵書目録においては書名が簡略化されていることがしばしば見られるので，ボレームの記述と厳密に一致していないことはそれほど問題ではない。しかし，だからといってこれら7点すべてを民衆本と決めつけることもできないだろう。民衆本には親本のある場合が見られる。すなわち，本来はより上位の読者向けに作られた書物（特に名称は

ないが，「民衆本」と分けるために「通常本」と呼んでおく）を廉価本に作りなおす場合で，ある意味では現在の単行本の文庫本化に似ている。書名だけでは単行本か文庫本か判別できないのと同様に，青本目録に掲載されているのと同じ書名だというだけでは民衆本だとは言えないのである。例えば②は貨幣の換算表であるが，著者バレームは17世紀に数学・計算術関係の書物を著した学者であり，②も1689年に通常本として出版された。これが1694年から1779年までに15版を重ねる一方，ボレームが指摘している民衆本がモンベリアールで出版されたのである。さらに，これらとは別の版が1755年にパリで出版されており，マジの蔵書目録にあるのはこの第3のものと思われる。この第3のものはフランス国立図書館では貴重書となっている[138]。我々が知りえたのは目下のところ以上であるが，これだけではマジが持つ第3のものが民衆本だとは断定しえない。同じようにして⑤と⑦にも親本が通常本で存在したはずであり，マジの持っていたのがどちらであったか，我々には確認の手段がないのである。マジの蔵書目録の319番にFigures de la Bibleという書物が記載されており，1582年にリヨンで出版された8折り判となっている。モラン，ボレームの青本目録にも同題の書物があり，8折り判なのだが，出版地はトロワのみで，出版年は1728年と1742年である[139]。マジが持っていたのは親本となった通常本であろうか。しかし①と③は遊戯の解説であり，④は馬の世話の仕方を説いた実用書，⑥は素人向けの治療法である。これらは最初から親本はなく，マジが所持していたのは民衆本であったと想定して構わないのではないかと思われる。

民衆本の読者層について，研究者の見解は必ずしも一致してはいない。マンドルーは本来の民衆が読者だったと考えているが，シャルチエはむしろ民衆本の読者層と通常本の読者層とが重なりあっているという側面を強調し，H. J. マルタンは17世紀まではエリート層も民衆本に親しんでいたが，同世紀末から両者は分離したと述べている[140]。我々は今，この論争には介入しない。ただ一人の蔵書のケーススタディから一般論を引き出す

ことなど，そもそもできない相談である。しかし，逆に「民衆本の読者層」をまず想定し，それを根拠にして民衆本を所持していたマジの知的水準を推し量るのも，同じように間違えであろう。我々にわかるのは，ヴォルテール，ルソー，モンテスキューを読む地方アカデミー会員が，遊戯や日常生活の実用については，民衆本を持っているという事実のみである。本当に必要だから所持していたのか，好事家的な好奇心から入手しただけなのかはわからない。ともあれ，マジの蔵書目録も「民衆本の読者」を論じる際の一つの参考事例とはなりうるであろう。

(3)　書物のサイズ

例えばセバスチアン・メルシエは『パリ通覧』の中で「15年ほど前までは余白を広くとった書物が大部分だったのだが，今や小さな版に対する愛好がとって替わった。…流行が変わったのだ。もはや小さな版しか求められない。立派な詩人の作品はすべて印刷しなおされた。これらの小型本はポケットに入れて持ち歩き，散歩の気分転換にしたり，旅の徒然を慰めたりすることができるという利点がある。しかし拡大鏡も一緒に持ち歩かねばならない。活字が小さいので，よほど目がよくなければ読めないのである。…厳しい出版統制により，すぐれた哲学書が出まわるのが妨げられているが，小型本にし，目立たなくすることによって切り抜けられないだろうか。こうすれば一巻全体を粉袋に隠すこともできる。…馬鹿な内容の本は，その大きさを誇ればよい。哲学は逆に，賢者のように，この世ではごく小さな場しかとらないのである。…」と述べ，小型本の流行を指摘するとともに，その思想的意味合いを（屈折したやり方で）示唆している[141]。またロジェ・シャルチエは来日中の講演で「また他方，判型の恒久的な序列が定まったのも，写本時代の最後の数世紀においてであった。読むためにはどこかに置かなければならないような，大学や研究用の書物である大きな二つ折り判（フォリオ）と，古典のテクストや新しい文芸著作を読ませる，より扱いやすく，人文主義的な本にみられる四つ折り判

（クアルト），および持ち運び容易で，ポケットの中に入れたり枕元に置くことができ，宗教的にせよ世俗的にせよさまざまな用途をもち，より多くのあまり裕福ではない読者向けの本にもみられる小型判（リベルス）への区別である。印刷された書物はこの分割をそのまま引き継いでおり，書物の判型はテクストのジャンル，読書の時間および方法と，厳密に結びついていた。その証拠として，たとえばロジャー・ストダートが引用している，チェスターフィールド卿のつぎのような覚書がある。『丈夫なフォリオは朝わたしが話しかける仕事の相手。クアルトは，昼食後にわたしが一緒に座る，じつにさまざまな仲間。そしてわたしは，小さなオクタヴォ（八つ折り判）とデュオデシモ（十二折り判）と，軽くてしばしばたわいないお喋りをしながら夕べを過ごす』。」と述べて，書物の大きさが，その内容や読書のあり方とも係わっていることを指摘している[142)]。

それでは，人は自分が好む大きさを選ぶことができるだろうか。ある場合にはできる。早い話，テュルゴはモンテスキューの『法の精神』を四つ折り判で2点持っているが，マジは十二折り判でしか持っておらず，ミラボーは四つ折り判と十二折り判を1点ずつ所持しているのである[143)]。もちろん，ほとんどの著作については，このように複数の判型の異版が出版されることはないだろう。もし四つ折り判でしか出版されていない書物だったら，小型本が好みであっても四つ折り判を購入せざるを得ない。そのように選択の余地のない場合の方がむしろ多いであろうが，その場合にはそもそも購入しないという選択もあり得るのである。書物のサイズと読書のありかたについて，シャルチエのように両者の関連を指摘する研究者はあるのだが，これまでの蔵書研究では書名・項目別の分類・刊行年・刊行地・用いられた言語などの分析はあっても，物としての書物の大きさを分析した研究は，我々の知るかぎり存在しない。だから新たに試みる価値はあるのである。

表の5～8とグラフ4が我々の調査結果である。書物の大きさとしては，量的にはごくわずかながら，十六折り判よりもさらに小さい二四折り判，

表5　マジの蔵書のサイズ

	宗教	法律	歴史	科学	文学	その他	合計	%
in 2^0	13	1	48	9	9	0	80	10.2
in 4^0	15	23	46	14	21	0	119	15.2
in 8^0	36	13	40	29	55	1	174	22.2
in 12	55	25	112	63	127	3	385	49.2
in 16	3	1	2	0	1	0	7	0.9
petit	2	2	1	1	12	0	18	2.3
その他	0	0	2	2	2	0	6	
不　明	9	3	16	10	11	2	51	
合　計	133	68	267	128	238	6	840	

「その他」は brochure と記されているもの5点，commun が1点。in 16 には，それよりも小型のものも含む。以下，同様。

表6　モンテスキューの蔵書の場合

	宗教	法律	歴史	科学	文学	合計(%)
in 2^0	121	114	221	145	97	698(22.3)
in 4^0	126	140	197	259	141	863(27.6)
in 8^0	142	88	186	239	210	865(27.7)
in 12	87	54	173	175	196	685(21.9)
in 16	2	1	3	3	5	14(0.4)
合　計	478	397	780	821	649	3125(100.0)

三二折り判も存在するが，これらは一六折り判の欄に含めた。マジの蔵書目録についていうと，“in 4”“in fol”のように記入されている場合がほとんどなのではあるが，表5に示したように，わずかながら“petit”と記されたものがある。これがどの程度の小ささなのか判断は難しいが，フランス国立図書館の目録やコンロンによる目録から，八つ折り判と推定さ

表7　テュルゴの場合

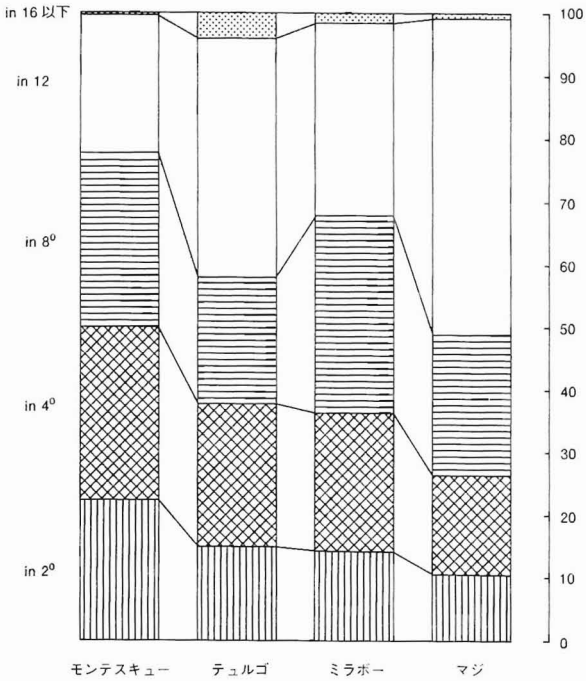
	宗教	法律	歴史	科学	文学	合計(%)
in 2^0	59	193	274	48	112	686(14.8)
in 4^0	62	291	312	222	180	1067(23.0)
in 8^0	90	81	171	275	322	939(20.2)
in 12	168	201	465	379	549	1762(37.9)
in 16	16	28	76	16	53	191(4.1)
合　計	397	794	1298	940	1216	4645(100.0)

表8　ミラボーの場合

	宗教	法律	歴史	科学	文学	合計(%)
in 2^0	17	4	190	142	47	400(14.0)
in 4^0	5	18	241	233	139	636(22.3)
in 8^0	29	32	262	324	248	895(31.4)
in 12	44	38	304	231	258	875(30.7)
in 16	5	1	6	10	24	46(1.6)
合　計	100	93	1003	940	716	2852(100.0)

れるもの1点，十二折り判と推定されるもの1点，十六折り判と推定されるのが3点ある[144)]。いずれにせよ，特に意図があって他と異なる記述をしたとは思われない。自分用の資料で，様式の統一性にはこだわらなかったので，このような記入をしたものと思われる。また5点は“brochure”と記されていて，そのサイズは不明であり，1点はサイズが記されるべきあたりに“commun”と記されている。「通常サイズ」の意味であろうか。パーセンテージを出す際には，これらは除外した。また，他の3者と比較する棒グラフにおいては，“petit”とされた18点も除外した。モンテスキュー，テュルゴ，ミラボーについても，サイズが不明のものは除外したので，分類別の表とは数字が多少異なっている。

グラフ4



二つ折り判と四つ折り判をを「大型本」，八つ折り判を「中型本」，一二折り以下を「小型本」と考えると，モンテスキュー，テュルゴ，ミラボー，マジの順で次第に大型本の比率が下がっていく。その分，より小型の本が増える訳であるが，テュルゴとミラボーでは中型本の比率が逆転している。言い換えれば，テュルゴの蔵書は，他と比較すると相対的に，大型本と小型本に両極分解しているのである。マジの場合は小型本が圧倒的に多く，一二折り判が全体の約5割を占めている。蔵書の2冊に1冊は十二折り判だったのである。言うまでもないことだが，二つ折り判では全紙サイズの半分がその本の大きさとなり，四つ折り判では1/4となる。すなわちサイズを示すのに用いられる数字と本の大きさは反比例しているのである。そこで各蔵書の書物の大きさの平均をとってみると，モンテスキューの場

合は（こんな言い方ができるとすれば）6.47 折り判，テュルゴの場合は 8.04 折り判，ミラボーの場合は 7.62 折り判である。マジの場合は，“petit” と記されたものの扱いなどが微妙なため，コンマ以下 2 桁まで求めることには意味がない。彼の蔵書の平均サイズは，やや大雑把になるが 8.9 折り判である。数値そのものも単なるめやすに過ぎないが，マジの蔵書が明らかに小型であることがわかる。

人はどのような理由であるサイズの書物を選ぶのだろうか。シャルチエは書物の大きさが読書のあり方そのものに関わっていることを示唆したが，それは購入した後の話であって，購入の動機そのものではあるまい。端的に言って，書物の価格が問題なのではないだろうか。言うまでもなく，小型本の方がより廉価なのである。階層的には中小ブルジョワジーに属するマジの蔵書が，他の 3 人の貴族のものより小型本を多く含むのは当然である。少なくとも，彼の蔵書の半分が小型本である理由を価格以外のところに求めねばならない理由はないように思われる。しかし，購入の直接の動機がいかなるものであれ，また当人がそれを意識しているか否かにかかわらず，書物の大きさは読書の仕方にも知らず知らずのうちに影響を及ぼす。仮に，大型本は装丁もていねいで，読む時には書見台に載せてうやうやしく読むものであり，小型本はポケットに突っ込んでおいて気が向いた時に気楽に読むものであるとするなら，どちらが著者の権威から自由に，批判的な検討を加えながら読めるかは，おのずと明らかだろう。もちろん，これはかなり誇張を加えた対比であって，実際の読書のあり方が今述べたように鮮やかな対照を示していたという保証は何もない。だが，シャルチエが示唆した書物のサイズと読書のあり方の関連とは，基本的な方向としては，このような対比ではないだろうか。我々は先に，マジが十二折り判の『法の精神』を持っていたことを指摘した。もしかしたら，その本が『法の精神』であったことと同じくらい「十二折り判」であったことにも注意を向けなければならないのかも知れないのである。

(4)　社会批判文書

ダーントンによれば，人々をフランス革命に導いたのは，政治論からポルノグラフィまで様々な形式による社会批判の文書であって，宮廷や貴族の2つのD，すなわちデスポティズムとデカダンスが糾弾されていたのだった[145)]。マジもフランス革命にかなり積極的にコミットしたのだが，蔵書の中には，これに当たる書物はほとんど見られない。勿論，前稿に記したように，ダーントンは「高級な啓蒙」と「低俗な文学」を対比させるのをやめて，代わりに「社会批判文書」で一括しているのであって，その意味ではモンテスキューの『法の精神』もドルバックの『良識』も社会批判文書である。しかし宮廷人の性生活にまで言及しながら過激な言葉で誹謗を行なうものとしては，既に指摘したAntoinette, essais hist. &c.が，ルイ16世の統治初期（1781年）に出版されたEssais historiques sur la vie de Marie-Antoinetteであろうと推定されるだけである。これは王妃マリー＝アントワネットの性生活に触れた誹謗文書である。このほかに，中世の女性教皇の伝記Papesse Jeanneもポルノ的な教会批判文書として存在するのだが，マジが所持していたのは真面目な伝記だった可能性もあり，タイトルだけでは断定はできない。

しかし，視野をより広くとるなら，マジも政府当局の権威を問題にする書物を持っていたと考えられる。宗教書では異端審問の資料集，ウニゲニトゥス文書をめぐる文書集や，オジアンデルの教皇批判，法律書ではイエズス会裁判の記録，歴史書ではマザリナド集や，レツ枢機卿のメモワール，ダミアン事件の裁判文書集などである。モンテスキュー，ルソー，ヴォルテール，ドルバックなど，いわゆる啓蒙思想家たちの作品も，これに含めることができよう。革命期になれば，モンターニュ派テロリストの無神論的な著作さえ，マジは入手するのである。ただしここで，彼の蔵書には著者の意見を開陳する作品よりも，資料集が多いことが指摘できよう。彼が歴史研究において示した実証的検討の精神は，政治思想の面にも指揮されていたのである。

IX. 終わりに

本稿に結論はない。啓蒙思想というフランス革命の関連を尋ねるため，一つのケーススタディとしてマジを取り上げた。これはその前半部分であって，マジの思想そのものを検討しなければ完結しないのである。蔵書の傾向からは，一見矛盾した人物像が浮かび上がってくる。詩や演劇といった伝統的・古典的な文芸に大きな関心を示しながら，18 世紀の小説にも目を向けていた人物。古代ローマ史に興味の中心がありながら，思想関係では同時代の哲学にひかれていた人物。文芸アカデミー史や異端審問についてはみずから中世の史料を漁り，古銭を研究するといった実証的な態度を持ちながら，オカルト的な書物にも興味を示した人物。当代の一流の思想書を持つだけの教養がありながら，民衆本の世界にも足を突っ込んでいた人物。もちろん，これを「矛盾」とするのは後世の研究者の勝手な思い込みであって，当人にとっては統一的な精神世界だったはずである。その世界はどのようなものだったのか，次は彼自身の著述を検討することにより，本稿とは別の角度から光を当ててみたい。

注

1）「啓蒙思想とフランス革命　(1)最近の研究史から」『武蔵大学人文学会雑誌』第 25 巻第 4 号（平成 6 年 3 月）

2）長谷川輝夫，"La bibliothèque d' un journaliste poitevin à la fin du XVIIIe siècle"『東京経済大学人文自然科学論集』48 号，(1978 年 3 月)，"La culture de la noblesse militaire provinciale dans la France du XVIII ^{e} siècle——une étude des bibliothèques privées——" 同 50 号，(1978 年 12 月)，"La culture du clergé provincial dans la France du XVIII ^{e} siècle——une étude des bibliothèques privées——"，同 54 号，(1980 年 3 月)，「私蔵書の教えるもの——アナール学派とその周辺——」，月刊エディター『本と批評』1980 年 7 月 8 月合併号，「書物の社会史——一八世紀フランスを中心に」志垣嘉夫編『近世ヨーロッパ』(有斐閣新書，1980 年) 163-195 頁，「読書と社会」木村尚三郎・志垣嘉夫編『概説フランス史』(有斐閣選書，1982 年) 275-304 頁。

3）モンテスキューについては *Catalogue de la bibliothèque de Montesquieu*, publié par Louis Desgraves, Genève et Lille, 1954，テュルゴについては津田内匠『チュルゴの蔵書目録

——フランス国立図書館所蔵の手稿による——』3巻，一橋大学経済研究所資料調査室，1974年，ミラボーについては *Catalogue des livres de la bibliothèque de feu M. Mirabeau l'aîné*, Paris, 1791による。本稿におけるモンテスキューの蔵書構成は，『チュルゴの蔵書目録』の解説で津田氏が示している数値（第3巻957頁）と若干異なるが，これは我々が，他の目録との整合を図るため，もとの目録では「宗教」に分類されている宗教史・教会史を「歴史」に分類しなおしたためである。なお，編者のデグラーヴはさらに別の数値を示している（cf. Introduction de la catalogue de la bibliothèque de Montesquieu, p. XII)。

4) Catalogue de mes livres... Magi 1764（以下，特に断らない限り，マジの蔵書目録をCatalogueと記す）no. 139, "Catalogue des livres de M. le C. de Lauragais avec les prix que j'ai marqués moi-meme a la vente faite a Paris en 1770, in 8"（以下，マジの蔵書の表記については，書名と著者名が一体になっている場合は分けるが，その綴字は極力原文のままとし，書名の後に刊行地・出版年・サイズの順に，蔵書目録に記載されているものを記す。こちらの綴字は現代フランス語のものに統一する。その他の記載事項は省略する）

5) Catalogue no. 1067, "Catalogue des livres de la bibliotheque de grandselve, manuscrit"

6) Daniel Roche, "Un savant et sa bibliothèque au XVIIIe siècle——les livres de Jean-Jacques Dortous de Mairan, secrétaire perpétuel de l'académie des sciences membre de l'académie de Béziers", *XVIIIe siècle*, 1969, pp. 47-88

7) 長谷川輝夫「17・8世紀フランス『青本』考」『東京経済大学人文自然科学論集』第74号，1986年，52頁。

8) Catalogue no. 96, "Bible de Saci, Bruxelles, 1705, in fol", no. 97, "La Sainte Bible qui contient le vieux et le nouveau testament, edition nouvelle faite sur la version de geneve &c., Amsterdam, 1669, in fol", および no. 98 "Bible, ou nouveau testament de geneve, Geneve, 1642, in 8"

9) Catalogue no. 624, "morale de grenoble ou resolution des cas de conscience &c. Paris, 1693, in 12", および no. 243, "dictionnaire des cas de conscience, par Pontas, Bâle, 1736, in fol".

10) Catalogue no. 151, "pratique des Ceremonies de l'egl. rom., du Molin, 1757, in 8"

11) Catalogue no. 611,"missale tolosanum, ad usum lombariensium, Toulouse, 1773, in fol", および no. 122, "Breviarium tolosanum, Toulouse, 1770, in 12"

12) Catalogue no. 148, "Catechismus ad ordinandos, Paris, 1703, in 12" および no. 484, "instruction pastrale sur l'eglise par demandes et reponses par l'ev de Sect., Paris, 1741, in 8"

13) Catalogue no. 936, "summa theologica S. Thomoe aquinatis, Lyon, 1702, in fol"

14) Catalogue no. 377, "Sti hieronimi opera, Lyon, 1508, in fol", "Epitres de S. Jerome", no. 163, "Clementis alexan. opera, Bâle, 1556, in fol", no. 254,"Dionysis areopagitoe opera, Paris, 1565, in 16".

15) Catalogue no. 482, "De l'imitation de jesus-christ, traduc. de Marsilly, Paris, 1706, in 12", no. 480, "de imitatione christi, Cologne, 1711, in 16", no. 479, "de imitatione christi, Paris, 1760, in 12"

16) Catalogue no. 755, "Petit careme de massillon, Paris, 1745, in 12", no. 741, "Pensees

choisies de massillon, Paris, 1749 in 12" no. 731, "Panegiriques de Massillon, Paris, 1753, in 12", no. 910, "Sermon de Massillon, grand et petit carême, et panegyrique, Paris, in 12"

17) Catalogue no. 66, "de doctrina christiana divi aurelii augustins, Cologne, 1527", no. 918, "soliloquia d. augustini, paris, 1646, petit", no. 65, "meditationes, soliloquia et manuale divi Augustini, Paris, 1646, in 16", no. 918, "Confessionum Libri XIII di Augustini, 1650, in 8", no. 67, "opuscula selecta St Augustini, Lyon, 1673, in 12", no. 661, "octave composée par le p. augustin, Toulouse, 1695, in 8"

18) Catalogue no. 526, "lettres d'angelique arnaud, in 12", no. 530, "lettres provinciales, Cologne, 1669, in 12", no. 837, "Recueil de divers ouvrages au sujet de la const. unigenitus &c., Utrecht, 1740, in 12" なお，マジはジャンセニストの文人 Arnauld d'Andilly が翻訳した宗教書を 2 点，歴史書を 1 点所持している。

19) 『チュルゴの蔵書目録』no. 143, *Catalogue de la bibliothèque de Montesquieu,* no. 299～303

20) この点に関しては，H. J. Martin *Le Livre français sous l'Ancien Régime,* p. 60 を参照。

21) Catalogue no. 716, "papa non papa &c. par Oziander, 1610, in 12", no. 531, "lettres, ou defense du christianisme, contre un ouvrage intitulé lettres sur la religion essentielle a l'homme par frs de roche pasteur de geneve, Lausanne, 1740, in 12", no. 193, "le conference du diable avec Luther, Paris, 1673, in 12", no. 974, "Tolerance des protestans, in 12", no. 861, "Reponses aux plaintes des protestans &c., Paris, 1686, in 12", no. 845, "Reformes (pretendus), 1644, in 8"

22) Catalogue no. 159, "Christianisme raisonnable &c. traduit de anglois de M. Locke, Amsterdam, 1731, in 12", no. 843, "Reflexions curieuses d'un esprit desinteressé sur le matiere le plus important au salut, Amsterdam, 1678, in 12"

23) Catalogue no. 798, "theses de l'abbé Prades"

24) Catalogue no. 303, "Examen impartial des principales religions du monde, in 12", no. 26, "Alcoran, Paris, 1649", no. 1072, "registre de l'inquisition de toulouse depuis le mois d'avril 1245, jusqu'au mois de juillet 1248, Manuscrit, in fol"

25) Catalogue no. 84, "instruction pour les expeditions de Benefice, dispenses de mariages &c. en cour de Rome, Paris, 1682, in 12", no. 85, "traité de Benefices, par fra paolo, Amsterdam, 1685, in 12"

26) Catalogue no. 799, "Pragmatica sanctio cum glossis &c, Paris, 1546, in 8", no. 126, "taxe des parties casueles de la Boutique du pape, par A. D. P., Leyde, 1607, in 8", no. 886, "Sanctio pragmatica, cum glossis d. cosmoe guismier &c., Paris, 1613, in 4", no. 261, "Droit canonique et du gouvernement de l'eglise &c., Avignon, 1750, in 12", no. 754B, "ordon.ces synodales par Peyronet, in 8"

27) Catalogue no. 543, "loix ecclesiastiques de france, par hericourt, Paris, 1721, in fol", no. 263, "Droit public ecclesiastique françois, par M. d. Boullay, Londre, 1740, in 12", no. 986, "Traité des droits et liberté de l'eglise gallicane, ou recueil de plusieurs traités sur nos libertés, Paris, 1609, in 4", no. 536, "traité, ou commentaire sur le traité des libertés de

l'eglise gallicane &c., par Pitou, Paris, 1652, in 4", no. 990, "Traité sur les benefices et sur les libertés de l'eglise gallicane, en latin, in 4", no. 192, "Concordata inter papam Leonem et regem franciscum cum interp rebussi, eiusdem tract^{s} nominationum &c., Paris, 1638, in 4", no. 754, "jus facrum ecclesioe tolos., par Peyronet, 1669, in 8", no. 841, "traité de la Regale imprimé par ordre de Mr l'eveque de Pamier, pour la defense des droits de son eglise, 1680, in 4"

28) Catalogue no. 45, "Commentarius ad Legestam regias quam XII tabularum, et mores et canones, rom juris antiqui, par A. C. Sylvius, 1603, in 4", no. 486, "institutiones justiniani cum notis vinnii, Amsterdam, 1658, in 12", no. 489, "institutiones justiniani et ex duges tit de verb. figu. et de reg. jur. &c., Amsterdam, in 16", no. 363, "juris hebreorum leges &c., 1655, in 4"

29) Catalogue no. 141, "Capitula caroli Mag. et Lud. pii, Paris, 1640, in 8"

30) Catalogue no. 247, "Dictionnaire de pratique 4e edit, par ferriere, 1758, in 4"

31) Catalogue no. 515, "legum delectus &c. opera d. jean domat, Paris, in 4", no. 204, "oeuvres postumes de coquille, Paris, 1650, in 4", no. 88, "jurisperitis, par Bertrandus, Toulouse, 1617, in 4", no. 549, "le prince de Machiavel, in 12", no. 226, "traité des delits et des peines, philadelphie, 1766, in 12", no. 200, "Contrat social, in 12"

32) Catalogue no. 466, "proces contre les jesuites, Brest, 1750, in 12", no. 708, "Etats tenus a orleans, 1773, in 8"

33) Catalogue no. 450, "histoire universelle de Bossuet, Paris, 1738, in 12", no. 727, "Paralelle des anciens et des modernes &c., par Perrault, Paris, 1690, in 12"

34) Catalogue no. 453, "histoire du schisme des grecs, par mainbourg, Paris, 1677, in 12", no. 386, "histoire de l'arianisme, par mainbourg, Paris, 1678, in 12", no. 424, "histoire du lutherranisme, par Mainbourg, Paris, 1681, in 12"

35) Catalogue no. 872, "traité des ceremonies de la cour de Rome la Ste, &c., 1622, in 8"

36) Catalogue no. 1027, "vie des Saints, Paris, in fol", no. 702, "onomasticon sanctum &c., par Peyronet, Toulouse, 1658, in 12"

37) 採り上げられているのは soeur Rose de S^{e} Marie, Madelene de pazzi, père Joseph capucin, soeur Catherine de tene, Jean de Lacroix premier carme déchaussé の5人である。

38) Catalogue no. 1925, "Vie de sixte V^{e}, La Haye, 1709, in 12"

39) Catalogue no. 725, "Papesse jeanne, par Blondel, Amsterdam, 1647, in 12"

40) Catalogue no. 324, "histoires et statuts de francs-maçons, Londres, 1743, in 12", no. 384, "histoire critique des pratiques superstitieuses &c. par un pere de l'oratoire, Rouen, in 12"

41) Catalogue no. 331, "funerailles et diverses manieres d'ensevelir des romains, grecs, et autres nations &c., par Claude Guichard &c., Lyon, 1581 in 4", no. 359, "inscriptiones antiquoe totius orbis romans, par janus gruter, 1602, in fol", no. 328, "flori (lucii annoi) hist., Amsterdam, 1652, in 12", no. 387, "histoire ancienne, par Rollin, Paris, 1748, in 12", no. 392, "ancienne histoire des empereurs, des rois de Sparte &c. ou sont les medailles de grands personnage de l'antiquité, in 8", no. 927, "L'Usage des statues chez les anciens,

Paris, in 4"

42) Catalogue no. 501, "josephi omnia quae extant opera, quorum hictomus continu antiguitatum judaïcarum &c., Lyon, 1546, in 8", no. 417, "histoire des juifs trad. par arnauld d'andilly, Paris, 1674, in 12"

43) Catalogue no. 371, "histoire d'herodote par du-ryer, Paris, 1645, in fol", no. 443, "histoire de thucydide de la guerre du peloponese, Paris, 1671, in 12", no. 775, "Vie de Plutarque, un petit vol des hom. illustres, Lyon, 1548, in 8", no. 687, "oeuvres de plutarque trad. d'Amiot et des hommes illust. par le meme, Genève, 1627, in fol"

44) Catalogue no. 357, "grandeur et decadence des romains, par M L p d M, Amsterdam, in 12"

45) Catalogue no. 1092, "instruction sur l'histoire de france par demandes et reponses en forme de catechisme, in fol", no. 410, "histoire des rois de france par portraits, Paris, 1697, in fol"

46) Catalogue no. 403, "histoire de france, par chalons, Paris, 1741, in 12"

47) Catalogue no. 401, "histoire d'eleonor reine de fr. et d'angl., Rotterdam, 1692, in 12", no. 32, "Anecdotes de la cour de Philippe auguste, Paris, in 12", no. 460, "histoire des demelée du pape Boniface 8 avec Philippe le bel, par Baillet, Paris, 1718, in 12"

48) Catalogue no. 78, "histoire du chev^{r} Bayar, Paris, 1768, in 12", no. 574, "discours merveilleux de la vie, actions et deportemens de catherine de Medicis, 1649, in 12", no. 365, "henrici II gall. reg. elogium, Paris, 1560, in fol", no. 599, "memoires de montbrun, Amsterdam, 1703, in 12"

49) Catalogue no. 413, "histoire de henri le grand, par perefixe, Paris, 1755, in 12", no. 367, "histoire de henri 4, in 8", no. 399, "histoire de la comtesse de luz; anecdote deu regne de henri 4, in 12", no. 119, "memoire de Brantome, in 12"

50) Catalogue no. 865, "journal de M. le card. duc de Richelieu, 1648, in 8", no. 1019, "Vie du Cardinal de Richelieu, par Mr. leclerc, Amsterdam, 1714, in 12", no. 766, "diverses pieces pour la defence de la reine mere de louis 13, in 4", no. 1022, "Vie de henri dernier duc de montmorency, par Sim ducros, Paris, 1643, in 4"

51) Catalogue no. 839, "Recueil de plusieurs pieces du tems de la regence et du card. Mazarin &c., in 4", no. 589, "memoires du cardinal de Retz, Amsterdam, 1718, in 12"

52) Catalogue no. 434, "histoire du regne de Louis le grand, par M. Louis Le gendre, Paris, 1701, in 12", no. 432, "histoire du regne de Louis XIV, par H. P. de Simiers, Amsterdam, 1718, in 12", no. 436, "histoire de france sous le regne de Louis XIV, par de larrey, Rotterdam, 1722, in 12", no. 916, "Siècle de Louis XIV, Leipzig, 1753, in 12", no. 1033, "memoire du duc de Villars, La Haye, 1734, in 12", no. 115, "Memoires de Boulainvilliers, La Haye, 1727, in 8", no. 430, "histoire du prince de Condé, Cologne, 1694, in 12"

53) Catalogue no. 337, "carte genealogique de la royale maison de Bourbon &c, par Bernard, Paris, 1634, in fol", no. 217, "les iniquités decouvertes ou recueil des pieces curieuses et rares qui ont paru lors du proces de Damiens, Londres, 1760, in 12"

54) Catalogue no. 44, "Antoinette, essais hist. &c., brochure", これは，1781年に出版されたEssais historiques sur la vie de Marie-Antoinetteであろうと推定される。後者については，R. Darnton, *Bohème littérature et Révolution*, p. 93を参照。

55) Catalogue no. 929, "Stratagemata gallorum, Toulouse, 1633, in 12", no. 61, "assertor gallicus &c., Dominicy, 1646, in 4", no. 125, "Dictionnaire de Borel, ou antiquité gauloises &c., Paris, 1655, in 4", no. 41, "Les Antiquités des villes de France, par Du chésne, Paris, 1688, in 12"

56) Catalogue no. 107, "histoire de Bordeaux, in 4", no. 165, "Origines de Clairmont capitale d'Auvergne, par Savaron, Clermont, 1607, in 8", no. 43, "Antiquité de Nismes, par Deyron, Nîmes, 1663, in 4", no. 295, "Essais historiques sur Paris, 1766, in 12", no. 42, "Antiquité de Rouen, par Du petit, Rouen, 1587, in 8"

57) Catalogue no. 1066, "registre des faux nobles en 1667, in fol"

58) Catalogue no. 238, "Dictionnaire de Bayle, Rotterdam, 1698, in fol"

59) この作品集は，本文中の9点とは別に，文学に分類してある。Catalogue no. 834には，欄外の余白部いっぱいに，購入した作品集の年度が書き込まれ，最終的に本文に記した3点が欠番である旨の注記がある。

60) この点に関しては，拙稿「啓蒙思想の地方伝播――十八世紀後半のトゥルーズのアカデミー」『武蔵大学人文学会雑誌』第13巻第2号（1982年1月）参照。

61) Catalogue no. 593, "memoires de l'histoire du languedoc, par catel, Thulouse, 1633, in fol"

62) Catalogue no. 388, "histoire d'angleterre, par duverdier, Paris, 1667, in 12", no. 385, "histoire d'Allemagne, par de Prade, Paris, 1685, in 12"

63) 注61)の1点のほか，Catalogue no. 1023, "Vie de l'empereur Charles V traduite de l'italien, Bruxelles, 1715, in 12", no. 592, "memoires du C. de vordac, general de l'empereur &c., Paris, 1723, in 12", no. 412, "histoire de frederic guil. I roi de prusse &c., Amsterdam, 1741, in 12"

64) 注61)の1点のほか，Catalogue no. 397, "histoire du schime d'Angleterre, par Sanderus, Paris, 1676, in 12", no. 1024, "Vie de Cromwel, par gregoire leti, Amsterdam, 1696, in 12", no. 400, "histoire de Cromvel, Amsterdam, in 12"

65) Catalogue no. 1090, "traité d'italie vol II, manuscrit, 1608, in fol", no. 1091, "traité d'italie, vol III, manuscrit, in fol", no. 425, "historiria parlicolare della cose passantetra'l s. p. paolo V et la rep. di venetioe &c., 1624, in 4", no. 35, "Anecdotes venetiennes et turques, ou nouveaux memoires du comte de Bonneval, Utrecht, 1744, in 12"

66) Catalogue no. 1088, "manifeste de tristan adolphe roy de Suede, sur son entrée en allemagne &c., manuscrit, 1644, in fol", no. 191, "Histoire de Christine, reine de Suede, Stocholm, 1762, in 12", no. 396, "histoire de Charles XII, par Voltaire, in 12"

67) Catalogue no. 525, "lettres de negotiations et pieces secretes pour servir a l'histoire des provinces unies &c., Londres, 1744, in 12", no. 594, memoires anecdote de pierre le grand empereur de russie, La Haye, 1729, in 12", no. 21, "histoire du card. Alberoni, La Haye,

1719, in 12"

68) Catalogue no. 215, "Etat des Cours de l'Europe et des provinces de france pour l'an 1787, in 8"

69) Catalogue no. 33, "Anecdodes persanes, par Mme de Gomez, Paris, 1727, in 12", no. 590, "memoires secrets pour servir a l'hist. de perse, Amsterdam, 1746, in 8", no. 994, "la Turquie chretienne &c., par le p. Lacroix, Paris, 1695, in 12", no. 445, "histoire de la virginie, Orléans, 1707, in 12", no. 457, "histoire de la conquete du Mexique par cortez, Paris, 1714, in 12"

70) Catalogue no. 444, "histoire philosophique et politique des etablissemens et du commerce des europeens dans les deux indes, par guill ᵉ thomas Raynal, Genève, 1783, in 8"

71) Catalogue no. 930, "Geographi Strabon, Bâle, 1523, in fol", no. 815, "geographia ptolomai, 1584, in fol"

72) Catalogue no. 544, "Londres, Neuchâtel, 1774, in 12", no. 639, "notitia utriusque vasconioe, in 4", no. 658, "recueil d'obsevations curieuses sur les moeurs, les coutumes, les usages la phisique, &c., Paris, 1749, in 12"

73) Catalogue no. 449, "histoire universelle des voyages faits par mer et par terre &c., Amsterdam, 1708, in 12"

74) Catalogue no. 232, "Description de versailles, par piganiol, Paris, 1718, in 12", no. 1050, "voyage pittoresque de paris, Paris, 1765, in 12", no. 372, "L'Heritiere de guyenne, Amsterdam, in 12", no. 1047, "Voyage d'Italie par Misson, La Haye, 1702, in 8", no. 938, "description general et histoire et phys. de la colonie de Surinam, par fermin, Amsterdam, 1769, in 8", no. 466, "jesuites (relacao abreviada &c. touchant le paraguai), in 12", no. 1051, "voyage de marseille a Lima &c., Paris, 1720, in 12", no. 1054, "voyage aux isles malouines &c. par dom pernetty en 1763 et 1764, Paris, 1770, in 8", no. 1055, "voyages de tavernier, 1692, in 8", no. 1049, "voyage de siam par l'abbé Choisy, Trevoux, 1741, in 12", no. 222, "Decouverte de l'empire de Cantahar, Paris, 1730, in 12"

75) Catalogue no. 72, "Les auteurs deguisés &c., par Baillet, Paris, 1680, in 12", no. 145, "Catalogus anctorum qui librorum catalogos, indices, bibliothcas &c. ab antonis teisseris &c., Genève, 1686, in 4", no. 753, "catalogues sanctorum &c., par simonis de Peyronet, Toulouse, 1706, in 4", no. 139, "Catalogue des livres de M. le C. de Lauragais avec les prix que j'ai marqués moi-meme a la vente faite a Paris, 1770, in 8", no. 1068, "catalogue de la bibliotheque des cordeliers de Beaumont, manuscrit, 1782, in fol", no. 1067, "Catalogue des livres de la bibliotheque de grandselve, manuscrit, in fol"

76) Catalogue no. 771, "platonis opera, Lyon, 1548, in fol", no. 54, "Aristotelis opera, Lyon, in fol", no. 382, "hipotiposes ou institutions pirroniennes de sextus empiricus, trad. du grec, 1725, in 12"

77) Catalogue no. 287, "manuel d'Epictere et commentaires de simplicius, trad. par M. dacier, Paris, 1715, in 12", no. 548, "de rerum natura (Lucretii cari). Florence, 1512, in 8", no. 50, "Apulei opera, in 8", no. 900, "Senecoe opera cum notio &c, Paris, 1602, in fol", no. 901,

"Oeuvres de Seneque, par chalvet, Paris, 1618, in fol", no. 626, "la morale de tacite, de la flaterie par amelot, Paris, 1696, in 12"

78) Catalogue no. 847, "Reflexions ou sentences et maximes morales, Paris, 1693, in 12", no. 738, "Pensées choisies sur divers sujets de morale tirées des plus excellens auteurs, Paris, 1733, in 12", no. 739, "Pensées diverses et proverbes choisis &c., Paris, 1712, in 12", no. 550, "traité sur magie, les sortileges, possession, obsessions et malefices avec methode pour les discerner &c., Par Dxxx, Paris, 1732"

79) Catalogue no. 279, "Eloge de la folie, Amsterdam, 1745, in 12", no. 881, "de la Sagesse, par Pierre Charron, Paris, 1646, in 8", no. 880, "de la Sagesse, par pierre Charron, Leide, 1656, in 12"

80) Catalogue no. 106, "reflexions morales de Bordelon, in 8", no. 285, "Entretiens sur la metaphisique &c., par Malebranche, Paris, 1696, in 12", no. 743, "pensees diverses sur la comete de 1680, Rotterdam, 1721, in 12", no. 686, "oeuvres philosophiques, sur l'existence de dieu &c., par Mr. de fenelon, 1742, in 12", no. 147, "Les caracteres de La Bruyere, Amsterdam, 1741, in 12"

81) Catalogue no. 539, "oeuvres de Locke, Amsterdam, 1732, in 12", no. 292, "Essai philosophique concernant l'entendement humain, traduit de l'anglois par coste, par Locke, Amsterdam, 1700, in 4", no. 293, "Essais de Mr. Leibnitz, Amsterdan, 1714, in 12"

82) Catalogue no. 524, "lettres juives, ou correspondance philosophique &c. La Haye, 1736, in 12", no. 921, "solitaire philosophe, amsterdam, 1736, in 12", no. 523, "lettres morales et critiques &c., par le marquis d'argens, Amsterdam, 1737, in 12", no. 675, "oeuvres diverses de Fontenelle, Amsterdam, 1742, in 12", no. 616, "Les moeurs, Leide, 1749, in 12", no. 298, "De l'Esprix des loix, Genève, 1750, in 12", no. 104, "Le bon-sens &c., avec quelques notes manuscrittes en refutation a la fin, Londres, 1772, in 8"

83) Catalogue no. 280, "Emile in 12", no. 692, "oeuvres diverses de j. j. Rousseau de geneve, Amsterdam, 1762, in 12", no. 742, "pensees de j. j. Rousseau, amsterdam, 1763", no. 239, "dictionnaire philosophique, avec un essai preservatif a manuscrits a la fin, in 8", no. 759, "La philosophie de l'histoire, Paris, 1765, in 8", no. 817, "questions sur l'encyclopedie, 1773, in 8"

84) Catalogue no. 39, "L'Anti-Lucrèce..., par M. le Cardinal de Polignac, Bruxelles, 1749, in 12"

85) Catalogue no. 797, "Les préjugé detruits, par lequinio, Paris, 1793, brochure"

86) Catalogue no. 82, "Belle Wolfienne avec deux lettres philosophiques sur l'immortalité de l'ame et sur l'harmonie préétablie, La Haye, 1741, in 12"

87) Catalogue no. 640, "Le nouveau Democrite, ou delassement de l'esprit, Paris, 1701, in 12", no. 715, "Pensées de M. le comte d'oxenstirn, La Haye, 1744, in 12", no. 844, "Reflexions philosophiques, ou la philosophie du bonsens &c, la Haye, 1748, in 12", no. 947, "Teillamed, ou entretiens d'un philosophe indien avec un missionnaire français &c, Bâle, 1749, in 12", no. 1045, "L'Univers enigmatique, par le marquis caraccioli, Francfort, 1760,

in 12"

88) Catalogue no. 207, "Della Cosmografia universale &c, par Sebastians Munstero, 1558, in fol", no. 208, "Cosmografie de thevet, 1575, in fol"

89) Catalogue no. 683, "oeuvres de pardies sur les matematiques, Lyon, 1725, in 12", no. 181, "Comptes faits de Barrême, Paris, 1755, in 12"

90) Catalogue no. 745, "systema pestis physicum, par joan Saguens, Cologne, 1721, in 8", no. 657, "observation curieuses sur toutes les parties de la phisique &c., Paris, 1730, in 12", no. 762, "Phisique du P. Regault, Paris, 1737, in 12", no. 156, "La mecanique du feu, par jac. etienne, Paris, 1713, in 12", no. 764, "phisica, manuscrit par moi a toulouse, in 8", no. 345, "traité de la gnomonique, manuscrit par moi"

91) Catalogue no. 428, "histoire du monde de pline, Lyon, 1662, in fol", no. 527, "lettres de pline le jeune, Rotterdam, 1703, in 12", no. 429, "histoire mundi (c. plinii), Lyon, in fol", no. 154, "traité de Chasse par Xenophon le jeune et oppion, Paris, 1690, in 12"

92) Catalogue no. 15, "de animalium natura, par Aeliani, Genève, 1611, in 8", no. 105, "Pierres precieuses, par Boodt, Hanovre, 1604, in 4"

93) Catalogue no. 1016, "Venus physique contenant une dissertation sur l'origine des hommes et des animaux, 1746, petit", no. 127, "histoire naturelle des oiseaux, par Buffon, Paris, 1770, in 12", no. 128, "histoire naturelle des oiseaux (suite), par Buffon, Paris, 1772, in 12", no. 926, "Le Spectacle de la nature, Paris, 1745, in 12", no. 602, "Principales merveilles de la nature, avec un precis des choses les plus rares &c., Amsterdam, 1745, in 12", no. 522, "histoire naturelle du languedoc, par genssane, Montpellier, 1776, in 8"

94) Catalogue no. 1087, "une botanique et une lithologie en vers latins, manuscrit"

95) Catalogue no. 162, "Chimie de macquer, Paris, 1756, in 12"

96) Catalogue no. 312, "della compositione del corpo humane &c., par hippocrate, manuscrit, in 12", no. 90, "Boloniensis medici compendium &c, par Bertrucci, Cologne 1537, in 4", no. 318, "medicus &c., ficinus", no. 1094, "recueil des plusieurs remedes, manuscrit, in 8", no. 197, "le conservateur de la santé &c., par Le begue de Presle, Paris, 1763, in 12", no. 516, "legion de sante du salin placard"

97) Catalogue no. 563, "Le marechal françois, in 8", no. 158, "construction des Chemins, Toulouse, 1693, in 12", no. 780, "poids nouveaux et mesures, in 8", no. 336, "de novi instrumenti stylo dissertatio &c., par Gatareri, Londres, 1648, in 4", no. 944, "tachéographie française et latine, Paris, 1683, in 12", no. 273, "L'Ecole des arpenteurs, in 82, no. 6, "agricutura, par Colesti, 1541, in fol", no. 173, "Columella, Paris, 1556, in 4", no. 75, "Loix des Batimens, &c., 1766, in 8", no. 544, "Loix des batimens, par Lesgodets et Goupy, 1776, in 8", no. 53, "Regles d'Architecture de vignolle, Lyon, in 8"

98) Catalogue no. 257, "Dixme royale, par Vauban, 1708, in 8", no. 951, "Testament politique de Colbert, La Haye, 1694, in 12", no. 706, "L'ordre naturel et essentiel des sociétés politiques, Londres, 1767, in 12", no. 481, "La Theorie de l'impot, 1760, in 12", no. 55, "L'ami des hommes, brochure, no. 19, "L'ami des hommes, in 12", no. 670, "oeuvres diverses du

che[r] temple, Amsterdam, 1708, in 12"

99) Catalogue no. 58, "L'antifinancier, ou relevé des malversations des traitans, in 8", no. 329, "avis pour neutraliser &c. les fosses d'aisances, in 8", no. 252, "dictionnaire de police, in 8", no. 803, "proyecto economics, par d. Bernardo Ward, Madrid, 1779, in 4"

100) Catalogue no. 138, "Cantur, ou methode du chant, in 12", no. 153, "recueil de Chansons, manuscrit", no. 269, "Traité sur la peinture, par Dupuy du Grez, Toulouse, 1699, in 4", no. 212, "cours de peinture, par Depiles, Paris, 1708, in 12", no. 748, "traite de la peinture, par leonard de vinci, Paris, 1716, in 12", no. 474, "jeu de l'hombre, Paris, in 12", no. 1002, "Jeu du trictrac, in 12", no. 11, "Academie des jeux, 1739, in 12", no. 1013, "La verge de Jacob, ou l'art de trouver les tresors &c., Lyon, 1693, in 12", no. 146, "familieres instructions pour les sciences de Chiromence et phisionomie, par Jean Belot, in 8", no. 807, "Les propeties de nostradamus, Lyon, in 12"

101) Catalogue no. 240, "Dictionnaire de Moreri, Lyon, 1681, in fol", no. 251, "Dictionnaire de trevoux, Paris, 1752, in fol", no. 249, "Dictionnaire de l'academie françoise, Paris, 1765, in 4", no. 732, "pantalon-phebus ou dictionnaire néologique, Amsterdam, 1748, in 12"

102) Catalogue no. 235, "Dictionarium Latino-gallicum &c, par Rob. Stephani, Paris, 1546, in fol", no. 1046, "vocabulaire universel latin-françois &c., Paris, 1754, in 8", no. 236, "Dictionarrium universale latino-gallicum, in 8"

103) Catalogue no. 242, "Dictionnaire françois et anglois, La Haye, 1740, in 4", no. 136, "dictionarium octolingue Calepini, in fol", no. 246, "Dictionnaire de la tres lenguas, espagnola, francesa, y italiana, Genève, 1671, in 4"

104) Catalogue no. 237, "Dictionarium historicum, ac poeticum &c., Lyon, 1579, in 4", no. 248, "Dictionnaire de la fable, par chompré, Paris, 1740, in 12"

105) Catalogue no. 348, "reflexions sur la grammaire, la rhetorique, &c., Par fenelon, Paris, 1716, in 12", no. 940, "Traité de la traduction, par Ablancourt, Paris 1657, in 8"

106) Catalogue no. 349, "Grammaire de restaut, Paris, 1755, in 12"

107) Catalogue no. 219, "le trimse dela lengaono gascons, par Astros, Toulouse, 1763, in 12", no. 335, "Les Gasconismes corrigés, Toulouse, 1766, in 8"

108) Catalogue no. 477, "L'iliade de la motte, Paris, 1714, in 8", no. 684, "oeuvres de pindare &c., Paris, 1617, in 8"

109) Catalogue no. 379, "horace latin et françois par Mme dacier, Paris, 1709, in 12", no. 461, "Q Horatii flac. carmina &c., Paris, 1763, in 12", no. 552, "Maison de camp d'horace, Rome, 1767, in 8", no. 380, "horace de Martignac, in 12", no. 662, "odes d'horace, de la trad. de Martignac, Toulouse, in 12", no. 603, "Les Metamorphoses d'ovide mises en vers frans. par F. Corneille, Liège, 1698, in 8", no. 604, "metamorphoses d'ovide de la traduction de Bellegarde, in 12", no. 277, "Elegies d'Ovide en vers françois, Lyon, in 12", no. 1040, "Virgilii maronis opera, cum notis, Paris, 1748, in 12", no. 1041, "Virgile de la traduction d M. l'abbé des fontaines, Toulouse, in 12", no. 546, "Lucien de la traduction de N. Perrot d'ablancourt, Paris, 1707, in 12", no. 167, "Claudianus, Amsterdam, 1620, petit"

110) Catalogue no. 286, "epigrammatum jonn ouveni cambrobritanni oxoniensis, Lyon, 1668, petit", no. 810, "psalmorum liber versibus heroicis, par Philippe Dumas, Paris, 1780, in 8", no. 568, "ex muses, par Martialis, Amsterdam, 1650, petit:, no. 567, "epigrammata cum notis th farnabii, par Martialis, 1545, in 12", no. 566, "epigrammaton &c., par Martialis, Cologne, 1623, in 12", no. 884, "Sannazarii opera omnia, Lyon, 1569, petit", no. 885, "Santolii oper. &c., Paris, 1698, in 12", no. 665, "opuscula vanierii e soc. jes., Paris, 1730, in 12"

111) Catalogue no. 679, "oeuvres de P^e Ronsard, Paris, 1610, in 8", no. 678, "Les oeuvres de Clem. Marot de Cahors, La Haye, 1700, in 12"

112) Catalogue no. 667, "oeuvres de M Boileau, Paris, 1750, in 12", no. 114, "Oeuvres de M. Boileau, amsterdam, 1750, in 12", no. 553, "poësie de Malherbe avec les obsevations de menage, Paris, 1698, in 12", no. 669, "oeuvres de voiture, Paris, 1652, in 4", no. 781, "poësie de segrais, Paris, 1661, in 12"

113) Catalogue no. 816, "La Pucelle de chapelain, 1656, in 12", no. 850, "La Religion, poëme par Racine, Paris, 1742, in 12", no. 722, "paradis perdu de Milton, 1749, in 12"

114) Catalogue no. 358, "oeuvres de Gresset, Genève, 1746, in 12", no. 677, "oeuvres de gresset, Londres, 1748, in 8", no. 674, "oeuvres diverses de Mr Le Franc, Paris, 1750, in 12", no. 691, "oeuvres de Rousseau, Londres, 1749, in 12", no. 694, "oeuvres complettes du C de B^ernis, Londres, 1767, in 8", no. 696, "oeuvres de M de Bologne, Paris, 1769, in 12", no. 1005, "vadé", no. 342, "pastorales et poëmes de M. Gesner, Paris, 1758, in 8", no. 685, "oeuvres de pope traduites en françois, Paris, 1748, in 12"

115) catalogue no. 355, "La grandeur de dieu, poëme de dulard, Paris, 1749, in 12", no. 723, "Le paradis terrestre, poëme imité de milton par Madame du Bocage, Londres, 1749, in 8", no. 787, "poësies pastorales de M. de fontenelle, Paris, in 12"

116) Catalogue no. 893, "Satyres de petrone lat. et franc. &c., 1709, in 12", no. 499, "Les Satyres de juvenal, latin et françois de la traduction de Martignac, Lyon, 1687, in 12", no. 796, "paroedium rusticum, par Jacques Vanière, Paris, 1761, in 12", no. 852, "les satyres de Regnier &c., Paris, 1614, in 8", no. 894, "satyres brutes monstres &c., par f. hedelin, Paris, 1627, in 8", no. 891, "Satyres du prince cantemir, traduites du russe en françois avec l'histoire de sa vie, Londres, 1750, in 12", no. 1042, "Le Virgile travesti &c., Lyon, 1728, in 12", no. 369, "La henriade travestie, La Haye, 1745, in 8"

117) Catalogue no. 613, "connoissance de la mythologie par demandes et reponses, Paris, 1739, in 12", no. 614, "la mythologie &c. expliquées par l'histoire, par M. l'abbé Banier, 1739, in 12", no. 398, "histoire du ciel, par Pluche, La Haye, 1744, in 12"

118) Catalogue no. 8, "Aesopi et aliorum fablae, 1522, in 8", no. 31, "aesopi fabulae, in 8", no. 306, "Phoedri fabulae, in 8", no. 308, "fabuloe hygini cum notis var., Hambourg, 1676", no. 307, "fabuloe abstemii, in eodem vol ac fab. phoedri"

119) Catalogue no. 310, "fable de La motte, Paris, 1719, in 12", no. 309, "fable de La Fontaine, Amsterdam 1738, in 12", no. 311, "fable de Richer, Paris, 1748, in 12"

120) Catalogue no. 984, "Tragedies d'aristophane (plutus et les puces) traduites en françois par Mlle Le Fevre (dacier), Paris, 1684, in 12", no. 643, "les nuées d'aristopoane, in 12", no. 664, "L'Oedipe et l'electre de Sophocle, tragedies grecques traduites en françois, Paris, 1692, in 12", no. 902, "tragoediarum Senecoe &c, avec la traduction, 1678, in 12", no. 903, "tragoediarum Senecoe, 1678, petit", no. 772, "comoediae (Plauti), Amsterdam, 1629, petit", no. 773, "comedies de Plaute, traduites par Mlle dacier lefevre, Paris, 1683, in 12", no. 950, "Terentii comedioe, Amsterdam, 1626, petit", no. 949, "Les comedies de Terence traduites par Madame dacier, avec remarques, Paris, 1688, in 12"

121) Catalogue no. 877, "Tragedioe claudii roilleti, sen varia poëmata, Paris, 1556, in 8", no. 956, "theatre de pierre corneille, Amsterdam, 1740, in 12", no. 831, "Recueil de tragedies de pierre Corneille (polycuete, Le cid, cinna, Rodogune, Horace, et Le triumvirat de crebillon), in 8", no. 202, "Les chefs d'oeuvres dramat. de Mrs Corneille, Amsterdam, in 12", no. 688, "oeuvres de Racine le pere, Paris, 1736, in 12", no. 620, "oeuvres de Moliere, Amsterdam, 1716, in 12", no. 619, "oeuvres de Moliere, Paris, 1768, in 12", no. 155, "Chevroeana, Paris, 1697 in 12", no. 690, "oeuvres de regnard, Paris, 1750, in 12", no. 134, "oeuvres de Mr. Capistron, Paris, 1690, in 12", no. 958, "theatre de thomas corneille, Paris, 1706, in 12"

122) Catalogue no. 832, "Recueil du theatre de Voltaire (Zaire, Alzire, Merope, La mort de Cesar, L'enfant prodigue, Nanine, Le droit du seig.), in 8", no. 673, "oeuvres de crebillon pere, Liege, 1718, in 12", no. 954, "theatre nouveau ital., Paris, 1733, in 12", no. 826, "Recueil de comedies de Mr. Destouches (Le philosophe marié, Le dissitateur, Le glorieux, La gouvernante), in 8"

123) Catalogue no. 825, "Recueil de comedies (Le grondeur, L'andrienne, La metromanie, solimann II, et le pere de famille) in 8", no. 174, "recueil de Comedies, Toulouse, 1652, in 8", no. 824, "Recueil de tragedies anciennes ou est la mort de cesar, les visionnaire et autres, in 8", no. 829, "Recueil de tragedies contenant Catilina, aristomene, semiramis avec une dissertation sur la tragedie", in 8", no. 833, "Recueil ou sont les tragedies, mahomet second de lanoue et gustave et le passetems poetique et philosophique, in 8", no. 828, "Recueil de tragedies et comedies (Iphigenie entauride, Zelmire, Callixte, Le mechant, et Le negociant, ou le bienfait rendu), in 8", no. 952, "pieces de Theatre, brochure"

124) Catalogue no. 218, "Daphnis et Chloé, Amsterdam, 1734, in 12", no. 220, "Le Decameron de Bocace, Rouen, 1645, in 8", no. 823, "oeuvres de Rablais, Bruxelles, 1666, petit", no. 51, "Arogenis Cum Clave, par Barclay, Francfort, 1634, in 16", no. 216, "Dames Galantes de Brantome, Leyde, 1699, in 12", no. 961, "aventures de Thelemaque, Amsterdam, 1738, in 12", no. 821, "Don Quixote de la mancha, par Cervantes, Bruxelles, 1611, in 8", no. 866, "Robinson Crusoé, in 12"

125) Catalogue no. 923, "Le Sopha, conte moral, Paris, 1730, in 12", no. 570, "Marianne, ou les avantures de Mme la comtesse de xxx, par Marivaux, Paris, 1734, in 12", no. 718, "La Païsanne parvenue &c., par M de Marivaux, Amsterdam, 1735, in 8", no. 747, "Pharsamon

ou les nouvelles folies romanesques par M de Marivaux, Paris, 1737, in 8", no. 528, "lettres persanes, Cologne, 1731, in 12", no. 948, "Le Temple de Gnide, Londres, 1755, in 8", no. 199, "Contes moraux, brochure", no. 507, "Les incas, in 12", no. 79, "Belisaire, Paris, 1767, in 12", no. 913, "Sethos, Paris, 1731, in 12", no. 201, "Conte du tonneau &c., Lausanne, 1742, in 12", no. 299, "L'Espion turc, in 12", no. 29, "Amusemens serieux et comiques, par Fontenelle, in 12"

126) Catalogue no. 27, "Amours de Psiché, in 12"

127) Catalogue no. 164, "Ciceronis opera, Paris, 1539, in fol", no. 704, "oraison funebres de flechier, Paris, 1705, in 12", no. 705, "oraison funebres de divers auteurs, Paris, in 4"

128) Catalogue no. 17, "Almanach royal de 1774"

129) Catalogue no. 168, "epistolae Ciceronis, avec traduction, petit", no. 534, "lettres ou Mr de voltaire peint par lui-meme &c., Lausanne, in 8", no. 520, "lettres cabalistiques, ou correspondance philosophique &c., La Haye, 1741, in 12"

130) Catalogue no. 790, "La polygraphie de triteme, Paris, 1561, in 4", no. 791, "Polygraphie de triteme, 1625, in 4", no. 494, "justi lipsi opera omnia quae ad triticam proprie spectant, Anvers, 1600, in 4", no. 172, "Colloquia famil. Erasmi, Amsterdam, 1647, in 12", no. 83, "opuscula Bembi (petri), in 8"

131) Catalogue no. 294, "Essais de Montaigne avec les notes de Coste &c., Londres, 1739, in 12", no. 668, "oeuvres diverses de Balzac, Paris, 1646, in 4", no. 693, "oeuvres de Scaron, Paris, in 12", no. 695, "oeuvres de S Evremond, in 12"

132) Catalogue no. 991, "Traité des etudes, par Rollin, Paris, in 12"

133) Catalogue no. 73, "Le Babillard ou le nouvelliste philosophe, traduit de l'anglois &c., Amsterdam, 1725, in 12", no. 596, "Le mentor moderne, ou discours sur les moeurs du siècle trad. de l'anglois &c., La Haye, in 12"

134) 以上の私蔵書の形成に関しては，長谷川輝夫「私蔵書の教えるもの」前掲，特にその53-54頁を参照。

135) この点に関しては，長谷川輝夫「フランスの青表紙本」『学燈』昭和61年3月，24-31頁，同「17・8世紀フランス『青本』考」前掲，を参照。

136) Morin, A., Catalogue descriptif de la Bibliothèque bleue de Troyes, Genève, 1974, Bollème, G., La Bible bleue; anthologie d'une littérature 〈populaire〉, Paris, 1975, appendice pp. 405-472,

137) no. 321, Déjeuné (le) de la Rapée ou discours des Halles et des porst nouvelle &c., no. 76, Bouquets poissard par M. Vadé... Suite de la Pipe cassée,

138) *Catalogue général des livres imprimés de la Bibliothèque Nationale*, (以下BN目録と記す) t. 7, 1901, pp. 1115-1118

139) A. Morin, op. cit. pp. 126-127, catalogue no. 298-300, G. Bollème, op. cit. pp. 428-429, catalogue no. 396

140) Mandrou, R., De la culture populaire aux 17e et 18e siècle; La Bibliothèque bleue de Troyes, Paris, 1795, (邦訳『民衆本の世界——17・18世紀フランスの民衆文化』二宮宏

之・長谷川輝夫訳，人文書院，1988年），Chartier, R., "Stratégies éditoriales et lectures populaires" dans Lectures et lecteurs dans la France d'Ancien Régime, Paris, 1987,（邦訳「出版戦略と民衆の読書」長谷川輝夫・宮下志朗訳『読書と読者――アンシャン・レジーム期フランスにおける』，みすず書房，1994年）

141）Mercier, L-S., "Petit Format", *Tableau de Paris*, chap. CCCXIII, t. IV, pp. 80-84

142）R. シャルチエ『読書の文化史』福井憲彦訳，新曜社，1992年，41頁

143）津田前掲書，108頁，Mirabeau, op. cit. p. 135

144）Catalogue no. 884, "Sannazarii opera omnia, Lyon, 1559, petit" は BN 目録から in 8", no. 1016, "Venus physique... (par Maupertuis), 1746, petit" は，Conlon, P. M., *Le Siècle des lumières――Bibliographie chronologique 1716-1760*, Genève, 1983-1993, t. 5, 1743-1747, 1987 から in 12", no. 167, "Claudianus, amsterdam, 1620, petit", no. 568, "ex muses, par Martialis, Amsterdam, 1650, petit", no. 772, "comoedia (Plauti), Amsterdam, 1629, petit" の3点は BN 目録から in 16 と，それぞれ推定できる。

145）R. Darnton, *Edition et sédition, L'univers de la littérature clandestine XVIIIe siècle*, Paris, 1991, p. 176 以下。特に第8章を参照。

（1994年4月26日　受理）